

★佐賀平野大規模浸水危機管理対策演習

(産官学一帯で水害対応について、九州管内で初、DIG形式の図上演習)

平成18年度から国・県・市町及び民間の連携により、佐賀平野における洪水等の災害を最小化するための危機管理対策の検討に取り組んでいます。大規模浸水を想定した場合、各機関が連携していく上で『どのような情報を必要とするのか?』、『何を緊急に行わなければならないか?』、『広域的に支援するために何が必要か?』といったことを互いに議論し、課題を抽出する図上演習(DIG形式)を、平成22年11月11日(木)に30機関の実務担当者約70名の参加により佐賀市水防センター(嘉瀬川防災ステーション)で実施しました。

DIG形式の効果は、あらかじめ決められたシナリオではなく、想定した場面を参加者全員で同じ場で考え議論することにより、災害イメージを理解できると共に、地域の防災力向上や災害時の連携に対する意識の高揚につなげることであり、このような演習は九州管内で初の試みであり、全国的にも水害対応の演習としては事例が少ないそうです。

演習は第1ステージ(河川水位が避難判断水位到達)、第2ステージ(河川堤防が破堤)、第3ステージ(河川水位が低下し、復旧が可能となる)状態を想定して、嘉瀬川(筑後川河川事務所が進行)、六角川(武雄河川事務所が進行)で同時に行い、両班ともに白熱した議論が繰り広げられました。

当日はNHK佐賀放送局、STS(佐賀テレビ)のTVカメラ2台に佐賀新聞社、西日本新聞社、建設新聞社の計5社の取材があり、注目度も大きく、大きなPRとなりました。(夕方TVニュースで放送)

今後は、演習で抽出された課題等を整理し、今年度末に公表予定の佐賀平野全体(筑後川、嘉瀬川、六角川)における危機管理計画に反映させ、全国に発信できるような取り組みにしていきたいです。



NHK

佐賀平野の水害 対応を議論



STS

課題を検討、危機管理計画に反映

夕方のニュースで放送



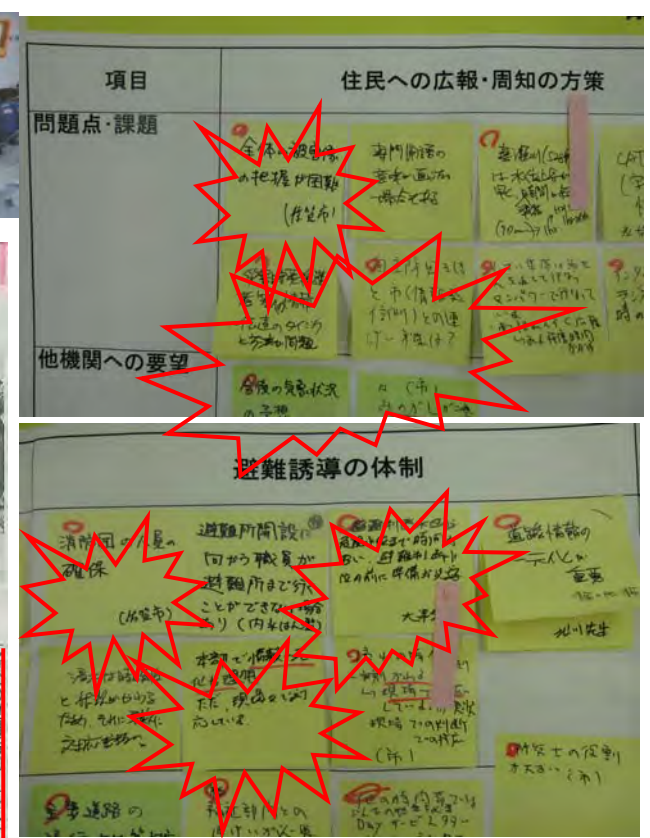
自衛隊、海保、自治体など
大水害を机上演習

最悪想定し、連携確認

佐賀平野の大規模浸水被害でも役割分担に無理がないかなどを検証した。100年に一度の大洪水を想定した机上演習が11日、佐賀市嘉瀬川の市水防センターであった。自治体や海上保安庁、自衛隊の消防防災担当者ら約30機関から実務者70人が参加。想定外の規模の災害に、堤防が決壊した(3)災

想定外の規模の大規模浸水への対応について意見を交わす消防防災関係機関の実務担当者ら—佐賀市の市水防センター

事後の復旧活動にステージ分けし、役割やノウハウを出し合った議論の中では「機能しない避難所もあるのでは」「通信が途絶えていたら」「最悪のケースを想定し、どの機関が応援できるかを考えた。中には、自治体担当者が「そこまでの想定はしていないので」と言葉に詰まる場面もあり、事務局を務める武雄河川事務所は「想定外が被害を生む。そうならないようにしたい」と話した。水防計画を現場訓練で実践することはあっても、机上で演習することは珍しい。今回の修正点をまとめ、本年度中に改訂版をつくる。(田中浩)



項目 住民への広報・周知の方策

問題点・課題

他機関への要望

避難誘導の体制

平成22年11月12日付佐賀新聞(朝刊)

演習成果の一部(ワークシートに整理)

第1ステージ



武雄河川防対官

訓練スタート(六角川班)

第1ステージの初期情報を説明します。
気象状況ですが、大雨洪水警報が発令中です。
河川状況は、六角川潮見橋観測所で避難判断水位に到達しています。
浸水状況は内水が発生しています...



武雄市

多久市

小城市



佐賀市



武雄市



白石町

避難判断水位到達の場面での状況分析と対応を説明する自治体

第2ステージ



海上保安庁

★海上保安庁
唐津海上保安部
・海保ヘリによるヘリテレ映像配信が可能。
・海保ヘリの孤立者の救助は可能。



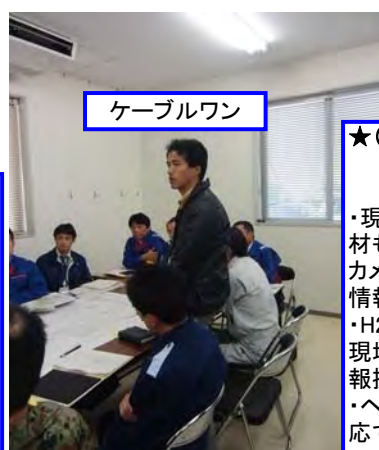
陸上自衛隊

★陸上自衛隊
第4特科連隊本部
・自衛隊によりヘリ着陸地点のシミュレーションをするので、位置座標を教えて欲しい。(ヘリポートの適地を図上で説明)



西日本高速道路

★西日本高速道路(株)九州支社 佐賀高速道路事務所
・降雨により高速道路も通行止となるが、緊急時は緊急車両を通す事は可能。(あらかじめ緊急車両の指定が必要)
・被災住民の避難場所の提供可能(SA・PA等)
・多久西PA緊急開口部の利用も考慮されたい。



ケーブルワン

★(株)ケーブルワン
(武雄市内にあるケーブルテレビ)
・現在、水害時には独自取材も含めて、河川空間監視カメラ映像により各家庭へ情報配信をしている。
・H21年7月出水時は独自で現地取材し、一般家庭に情報提供した。
・ヘリテレ映像についても対応できるよう作業中である。

第3ステージ



嘉瀬川出張所長



朝日出張所長(六角川)



佐賀国道 道路管理第一課 専門職

復旧活動や通行止めに関する情報を河川、道路の事務所から説明

第3ステージ

九州電力

★九州電力(株)佐賀支店

- ・変電所が水没した場合は、電力供給ができないが、変電所を高くするなどの対策はとっている。
- ・各家庭はある程度浸水すると、ブレーカーが落ちる。

NTT西日本

★西日本電信電話(株)佐賀支店

- ・交換所(アラームでの監視)土砂崩れ、倒木等によるケーブル切断の可能性あるため、順次パトロールを実施。
- ・広報車による活動を実施。

九州電力

NTT

神崎市

佐賀市

みやき町

吉野ヶ里町

関係機関の意見交換状況

海上保安庁

陸上自衛隊

佐賀地方気象台

佐賀県警

佐賀県

関係機関の意見交換状況

佐賀県

九州電力

筑後川河川防対官

関係機関の意見交換状況

演習まとめの発表(嘉瀬川班)

濱田主任研究員からもコメント

★NHK放送文化研究所 濱田主任研究員

- ・被災者にどう情報を提供するか？プレスリリースについては、防災計画書へ記載して、あらゆる情報を提供して欲しい。(災害対策基本法でNHKは指定報道機関となっている)
- ・ボランティアの受け入れについては行政側で考えて欲しい。

北川教授も議論に参加

武雄市

白石町

★佐賀大学:北川教授

- ・死者やけが人の救急体制や連絡体制は？
- ・避難所開設から3日以上たった時の健康度の確認と病院移動などの対応は誰がするのか？医療体制を決めておく事が大事。
- ・洪水後のゴミは誰が片づけるのか？



荒牧名誉教授



渡邊教授



北川教授



大串准教授

★講評★

(荒牧佐賀大学名誉教授)

・「あらゆる情報をどう収集して、どのように伝えていくか？」インターフェイス(組織間、市民・県民)の問題に対して、知恵を出し合っていくことが大切である。

(渡邊佐賀大学教授)

・自治体と自主防災組織や水防団との間でコミュニケーションを十分にすることが大切である。(災害時等に情報収集をするときなど)

(北川佐賀大学教授)

・避難所から自宅等へ戻った後の住民対応も大事である。(健康面、衛生面、防犯面など)
・避難所開設から3日以上経過すると、避難所の運営について不満も出てくるので、事前の備えが必要である。

(大串佐賀大学准教授)

・河川特性(嘉瀬川:天井河川、六角川:潮位の影響大)に応じた細やかなの対策を考える。

**「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」に
基づく机上訓練の実施**

事前説明会(案)

平成22年11月1日

本日のスケジュール

- 13:30～13:40 DIGの概要
- 13:40～13:50 机上演習の目的、狙い
- 13:50～14:00 演習のアウトプット
- 14:00～14:20 演習の進め方
- 14:20～14:40 各機関への検討課題
- 14:40～15:00 質疑応答

DIGの特徴

- DIGには、形式張ったルールがあるわけではなく、対象となる災害や参加者の立場・役割に応じてさまざまな内容の訓練を実施することが可能です。
- ただし、どのような場合でも、対象となる地域の地図を参加者全員で囲み、イメージできる被害や対応等を地図・ワークシート等に書き込みながら参加者全員で議論することが共通点です。
- このような作業を参加者全員で行うことにより、災害対応時に重要とされる「災害を知る」、「まちを知る」、「人を知る」ことができ、地域の防災力向上や災害時の連携に対する意識の高揚につながります。

DIGの効果

- 災害そのもののイメージを理解（再認識）できる。
- 災害によってもたらされる地域の被害状況が認識できる。
- 被害状況に応じて単独で、または連携してできることなどが認識できる。
- 災害対応時の人的なネットワークの形成が図れる。
- 防災意識が向上する。

「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」に基づく机上訓練の目的

1. 訓練の目的

- 佐賀平野大規模浸水危機管理計画改訂版の資料を活用し、大規模浸水を想定した災害対応について訓練を実施し、各機関の連携強化や課題を抽出、改善策を検討する

2. 訓練方法（案）

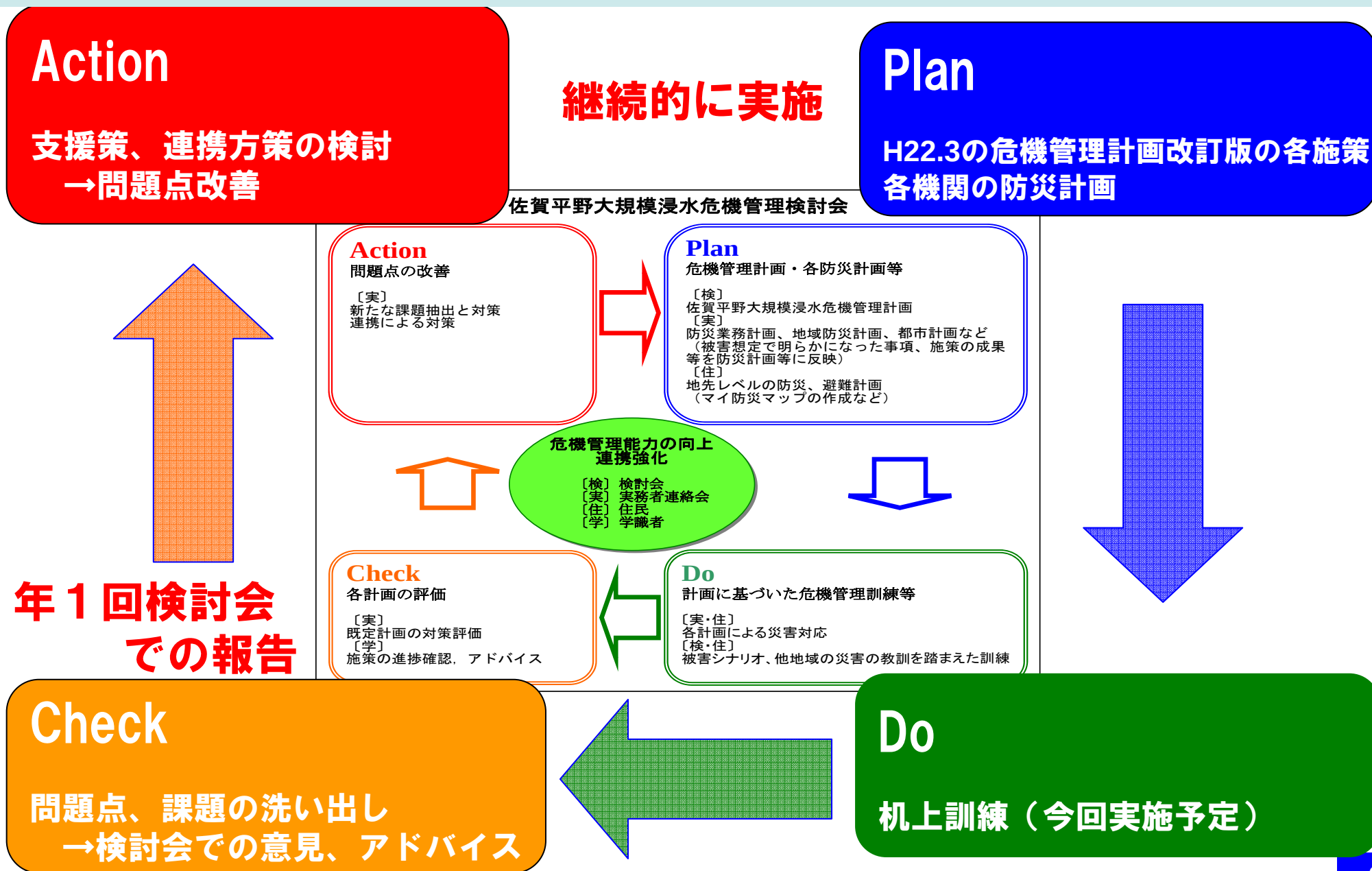
大規模浸水を想定した3つの場面を設定し、演習によりその場面ごとの課題を洗い出す。

想定している洪水：概ね100年に1回程度起こる大雨を対象とする

3. 訓練実施日

- ・ 平成22年11月11日

検討会における危機管理計画のフォローアップ計画の実践



DIGの成果を危機管理計画施策に反映

問題点・課題	他機関への要望	支援可能な対策
通行可否情報の早期収集 ↑ 近年の訓練や出水、他地域で課題となっている事項を洗い出す	通行可否情報の共有	ヘリテレ映像の情報提供 CCTV画像による浸水状況提供

反映

今回は課題出しの訓練

1. 情報収集・伝達

番号	項目	参加連携機関			
		国	県	市町	民間
1	ラジオによる情報伝達	○	○	○	○
2	防災情報総合掲示板	○	○	○	○
3		○	○	○	○
4		○	○	○	○
5		○	○	○	○
6		○	○	○	○
7	高速	○	○	○	○
8	河川・防災情報表示板の設置	○	○	○	○
9	地上デジタルテレビ放送を活用した河川防災情報提供	○	○	○	○
10	ケーブルテレビ放送を活用した河川防災情報提供	○	○	○	○
11	気候変化のモニタリング	○	○	○	○

〇〇部会

2. 広域応援・緊急輸送路ネットワーク

番号	項目	参加連携機関			
		国	県	市町	民間
1	地域高規格道路等と河川堤防の接続	○	○	○	○
2		○	○	○	○
3		○	○	○	○
4		○	○	○	○
5		○	○	○	○

〇〇部会

3. 連携強化

番号	項目	参加連携機関			
		国	県	市町	民間
1	避難所整備ガイドライン	○	○	○	○
2	避難所の位置及び構造の評価	○	○	○	○
3	防災まちづくり	○	○	○	○
4		○	○	○	○
5		○	○	○	○
6		○	○	○	○
7	避難	○	○	○	○
8		○	○	○	○
9	ボランティアと連携した救助体制の構築	○	○	○	○
10	避難所運営マニュアルの作成	○	○	○	○
11	災害時要援護者の避難支援	○	○	○	○

〇〇部会

検討会で報告
年1回

演習のアウトプット

課題整理ワークシート

	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
項目			
問題点・課題	人員不足等で 現地の被害 状況の早期 把握が困難 一般道が渋滞 したときの 避難勧告 ・指示	救助の現場に 行きたいが、 どこまで現場 に入れるかが 分からない 水防・救助の 資機材の不足	復旧の現場に 行きたいが、 どこまで現場 に入れるかが 分からない
他機関への 要望	早期に被害の 全体像を共有 する仕組み 内水等の 局所的な 浸水状況	一般道の通行 止め情報の共有	一般道の通行 止め情報の共有
支援可能な 対策	ヘリ映像の配信による 全体被害像早期把握		
関連する施 策	CCTV画像による 浸水状況提供 ヘリテレによる 画像の生中継		

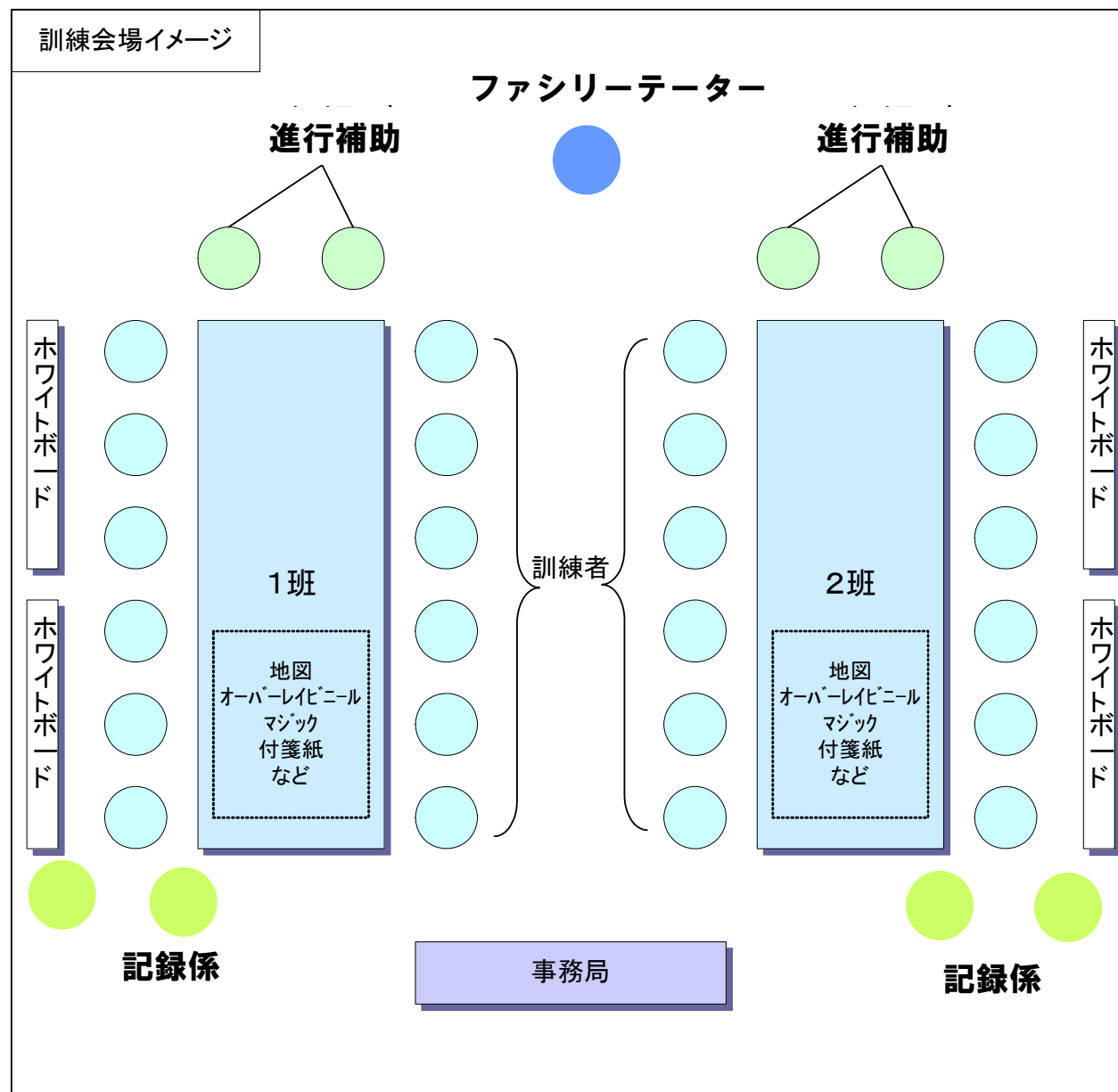
成果整理の作業イメージ



机上訓練（訓練編成）

	第1班（嘉瀬川 左岸） * 嘉瀬川左岸15k 破堤	第2班（六角川 右岸） * 六角川右岸25破堤
自治体（市町）	・ 佐賀市2名（消防を含む）	・ 白石町2名（消防を含む） ・ 武雄市2名（消防を含む）
佐賀県	・ 防災 1名 ・ 河川 1名 ・ 道路 1名	・ 防災 1名 ・ 河川 1名 ・ 道路 1名
河川管理者	・ 筑後川河川事務所	・ 武雄河川事務所
関係機関	・ 佐賀国道事務所 ・ 九州電力 ・ NTT ・ 佐賀ガス ・ 陸上自衛隊 ・ 海上保安庁 ・ 佐賀県警 ・ 西日本高速	・ 佐賀国道事務所 ・ 九州電力 ・ NTT ・ LP協会 ・ 陸上自衛隊 ・ 海上保安庁 ・ 佐賀県警 ・ 西日本高速
計	14名	14名

机上訓練（会場イメージ）

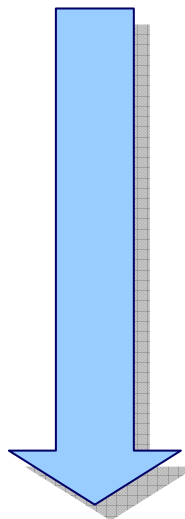


訓練のステージ

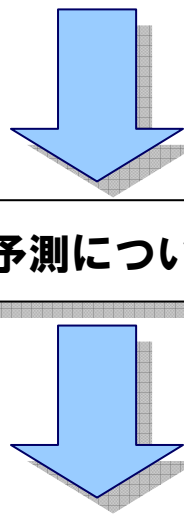
ステージ	状況	中心機関
1	■避難判断水位に達した時点 ・内水の浸水発生・今後外水の氾濫が想定される	市町村
2	■河川の堤防が決壊した直後の時点 ・外水の氾濫が急速に拡大し、氾濫水による危険な状態が発生している	実働機関
3	■河川の堤防が決壊した外水位がピークを経過した時点 ・外水の氾濫が最大限に拡大し、避難や被害の状況が明らかになっている ・外水の氾濫は、しばらくすると縮小を始める。それに備え氾濫水の速やかな排除と決壊箇所の復旧が焦点	佐賀県 河川管理者 ライフライン機関

訓練の進め方

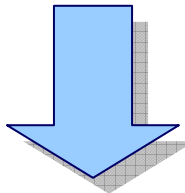
1 : 初期情報（浸水・被害・避難状況など）を説明（ファシリテーター）



2 : 外水氾濫の今後の予測について説明（河川管理者）



3 : 状況の分析と今後の対応を説明（中心機関）



4 : 問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理（全機関）

訓練スケジュール

ステージ	時間	訓練の進め方の説明
開会	13:00 13:03	開会挨拶 訓練の進め方の説明
ステージ 1	13:15	1. 初期情報の説明 2. 外水氾濫の今後の予測について説明
	13:25	3. 状況の分析と今後の対応の説明
	13:35	4. 問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理
ステージ 2 ステージ 3	14:40	1. 初期情報の説明（2, 3ステージまとめて） 2. 外水氾濫の今後の予測について説明
	14:50	3. 状況の分析と今後の対応の説明
	15:00	4. 問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理
発表・講評等	16:15	発表
	16:35	感想・意見
	16:50	講評
	16:55	あいさつ
	17:00	終了

↑
85分
↓
↑
95分
↓

ステージ1 避難判断水位に達した時点 (内水の浸水発生・今後外水の氾濫が想定される)

訓練課題（項目）	対応訓練内容
①内水による浸水状況の確認 避難場所・避難ルートなど確認	地図で区域確認 (関係機関で共同作業)
②外水氾濫の可能性・氾濫範囲などについての情報提供	河川管理者が説明
③状況分析と今後の対応 住民の避難活動の開始に向けて、「避難準備情報」「避難勧告」発令 (対象区域・避難ルート・避難場所・避難支援誘導方法など)	自治体が、対応策を発表・説明
④問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理 i 住民への広報・周知の方策 ii 避難誘導の体制 iii 避難所開設・運営の体制 ※その他、要援護者に対するの救援・支援・誘導・救助の体制等	全機関で協議

ステージ2 河川の堤防が決壊した直後の時点 外水の氾濫が急速に拡大し、氾濫水による危険な状態が発生

訓練課題（項目）	対応訓練内容
①氾濫による浸水状況（区域・流速・広がる方向・水深）の確認 避難場所・避難ルートなど確認	地図で区域確認 （関係機関で共同作業）
②外水氾濫の今後の予測（氾濫範囲など）についての情報提供	河川管理者が説明
③状況分析と今後の対応 ：危険が迫る中で、安全な住民の避難活動に向けて、避難指示・救援活動・誘導活動のあり方。 （避難ルート・避難場所・避難支援誘導方法など） ：逃げ遅れ・取り残された孤立者などへの対応	実働機関（消防・警察・自衛隊・海上保安庁など）が、対応策を発表・説明
④問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理 i 関係機関の連携にあり方（合同本部の設置） ii 避難誘導・救援の分担・協力体制 iii 情報の収集・交換・共有の方策 ※その他、要援護者に対するの救援・支援・誘導・救助の体制等	全機関で協議

ステージ3 河川の堤防が決壊して24時間程度経過した時点

- ・ 外水の氾濫が最大限に拡大し、避難や被害の状況が明らかになっている
- ・ 外水の氾濫は、しばらくすると縮小を始める。それに備え氾濫水の速やかな排除と決壊箇所の復旧が焦点

訓練課題（項目）	対応訓練内容
①氾濫による浸水状況（区域・流速・広がる方向・水深）の確認 ・ 避難場所・避難状況・被害状況（特に人的被害）など確認 ・ 決壊被害状況・資材機材備蓄状況・運搬ルートなど確認	地図で区域確認 （関係機関で共同作業）
③状況分析と今後の対応	
・ 状況が判明する中で、広域的な応援を含めた体制のあり方 （住民の避難活動をうけて、避難所の運営・救援・食料・毛布など、スタッフ・機材・資材などの確保）	佐賀県が、対応策を発表・説明
・ 氾濫水の速やかな排除の方策と見通し ・ 決壊箇所の復旧の工程・工法・段取りなど	河川管理者が、対応策を発表・説明
・ 速やかな復旧に向けた対応について	ライフライン機関（電力・ガス・NTT）が対応策を発表・説明
④問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理 - i 関係機関の連携のあり方 - ii 合同対策本部の体制 - iii 広域的な応援の体制 - iv 復旧活動を迅速に行うための交通規制など関係機関の連携 - v 住民避難の見通しと安全な帰宅の方策 ※その他、要援護者に対しての支援・救助の体制等	全機関で協議

各機関検討課題(共通)

- 赤の部分について、課題、要望、支援可能な策を検討しておく
- 当日、付箋紙で張り出す

■第1ステージ

- ④問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理
 - i 住民への広報・周知の方策
 - ii 避難誘導の体制
 - iii 避難所開設・運営の体制
- ※その他、要援護者に対しての救援・支援・誘導・救助の体制等

■第2ステージ

- ④問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理
 - i 関係機関の連携にあり方（合同本部の設置）
 - ii 避難誘導・救援の分担・協力体制
 - iii 情報の収集・交換・共有の方策
- ※その他、要援護者に対しての救援・支援・誘導・救助の体制等

■第3ステージ

- ④問題点・課題、他機関に対する要望、支援可能な対策を付箋紙に記入、模造紙に整理
 - i 関係機関の連携のあり方
 - ii 合同対策本部の体制
 - iii 広域的な応援の体制
 - iv 復旧活動を迅速に行うための交通規制など関係機関の連携
 - v 住民避難の見通しと安全な帰宅の方策
- ※その他、要援護者に対しての支援・救助の体制等

各機関検討課題

(自治体:佐賀市、武雄市、白石町)

- 緑の部分について、発表資料を準備する
- 当日、地図等で説明をする

■第1ステージ

③状況分析と今後の対応

住民の避難活動の開始に向けて、「避難準備情報」「避難勧告」発令
(対象区域・避難ルート・避難場所・避難支援誘導方法など)

各機関検討課題

実働機関(消防・警察・自衛隊・海上保安庁など)

- 緑の部分について、発表資料を準備する
- 当日、地図等で説明をする

■第2ステージ

③状況分析と今後の対応

：危険が迫る中で、安全な住民の避難活動に向けて、避難指示・救援活動・誘導活動のあり方。

(避難ルート・避難場所・避難支援誘導方法など)

：逃げ遅れ・取り残された孤立者などへの対応

各機関検討課題(佐賀県)

- 緑の部分について、発表資料を準備する
- 当日、地図等で説明をする

■第3ステージ

③状況分析と今後の対応

- ・状況が判明する中で、広域的な応援を含めた体制のあり方
(住民の避難活動をうけて、避難所の運営・救援・食料・毛布など、スタッフ・機材・資材などの確保)

各機関検討課題(河川管理者)

- 緑の部分について、発表資料を準備する
- 当日、地図等で説明をする

■第3ステージ

③状況分析と今後の対応

- ・氾濫水の速やかな排除の方策と見通し
- ・決壊箇所の復旧の工程・工法・段取りなど

各機関検討課題

ライフライン機関(電力・ガス・NTT)

- 緑の部分について、発表資料を準備する
- 当日、地図等で説明をする

■第3ステージ

- ③状況分析と今後の対応
 - ・速やかな復旧に向けた対応について

他事例にみる課題

	課題
避難誘導 避難勧告・ 指示の遅 れ	・避難者数が避難所の定員を超過した。 ・規模の大きな洪水に対する避難勧告・指示が的確に発令できず、安全な避難行動を早期の段階で実施できない ・上下流の自治体で基準が異なり、発令時期が異なる場合もみられた。 ・自治体が避難判断などの高度な意思決定を行うのに十分な情報が入手できていないあるいは提供されていない。
情報提供・ 伝達・共有	・自治体側は、水害時に集中する情報や問い合わせに対して、十分な対応が不可能となった。その結果、収集された情報を有効に利用することが出来なかった。 ・人員不足等、情報入手手段の不備より、現地の被害状況の的確な把握が困難になった。 ・住民側は、情報入手手段としてテレビを重視していたこと、広報車による音声案内が豪雨で聞こえなかったことなどにより、避難勧告指示に関する情報を十分に受信できない住民もいた。 ・河川管理者からの情報提供において、インターネットを利用した防災情報の入手に手間がかかる、リアルタイムな情報提供になっていないなどのいくつかの課題が見られた。
水防・救助 体制	・水防救助活動における資機材不足が発生した。 ・逃げ遅れた住民救助の際に、救助にあたった消防団等に二次災害発生の危険性があった。 ・水害を想定した具体的な訓練の不足により、堰・樋門等の操作、水防作業などの度に遅滞が生じる場合がみられた。

「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」に基づく 机上演習の実施

初期情報と外水氾濫の予測に関する補足資料 ステージ1

【嘉瀬川左岸】

1	気象状況	1
2	河川水位	3
3	浸水の状況（範囲・水深）	5
4	通行止め情報など、道路浸水状況	6
5	避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など	8
6	避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ	8

1 気象状況

6月24日午後から25日早朝にかけて満州から華中方面へ南西にのびる気圧の谷がしだいに深まり、山東半島の南に 998mb の低気圧を伴って接近したため、梅雨前線が北上し、佐賀地方は25日朝から雨となった。

- ・ 官人橋上流流域：時間最大雨量 22mm、降り始めから累加雨量 80mm

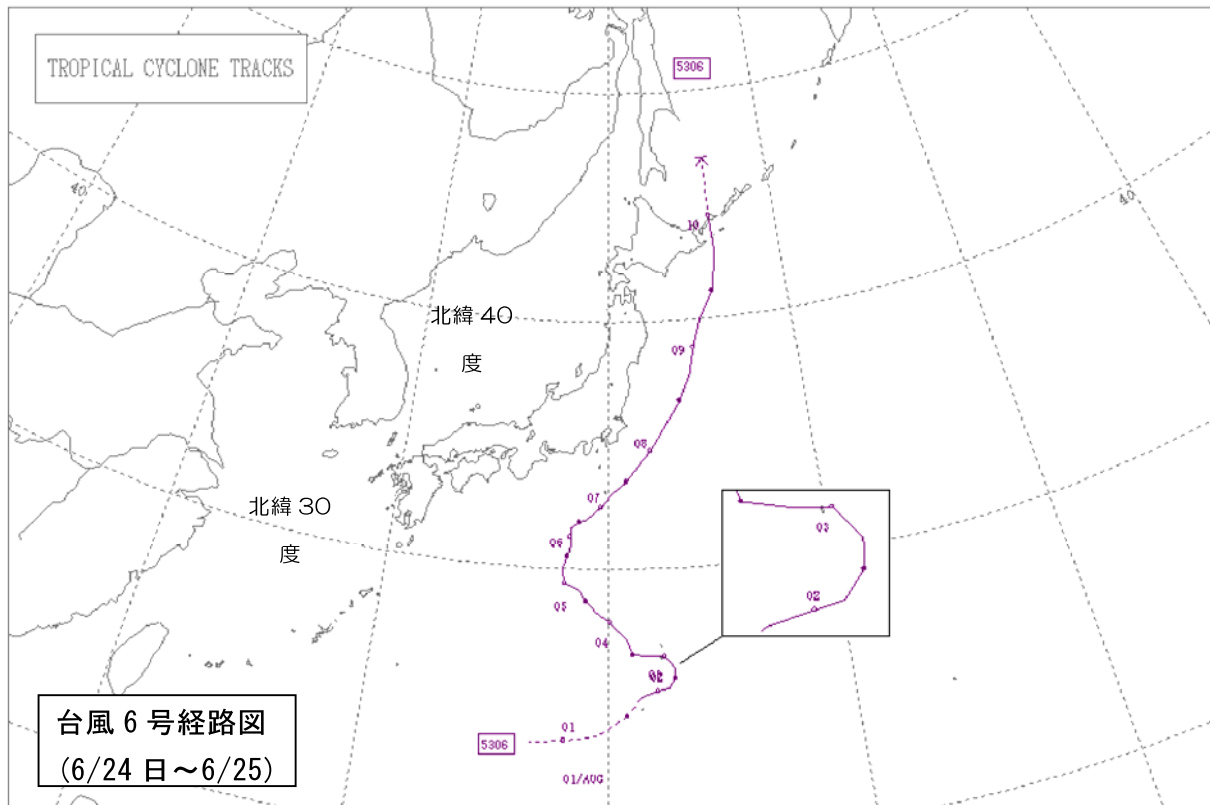
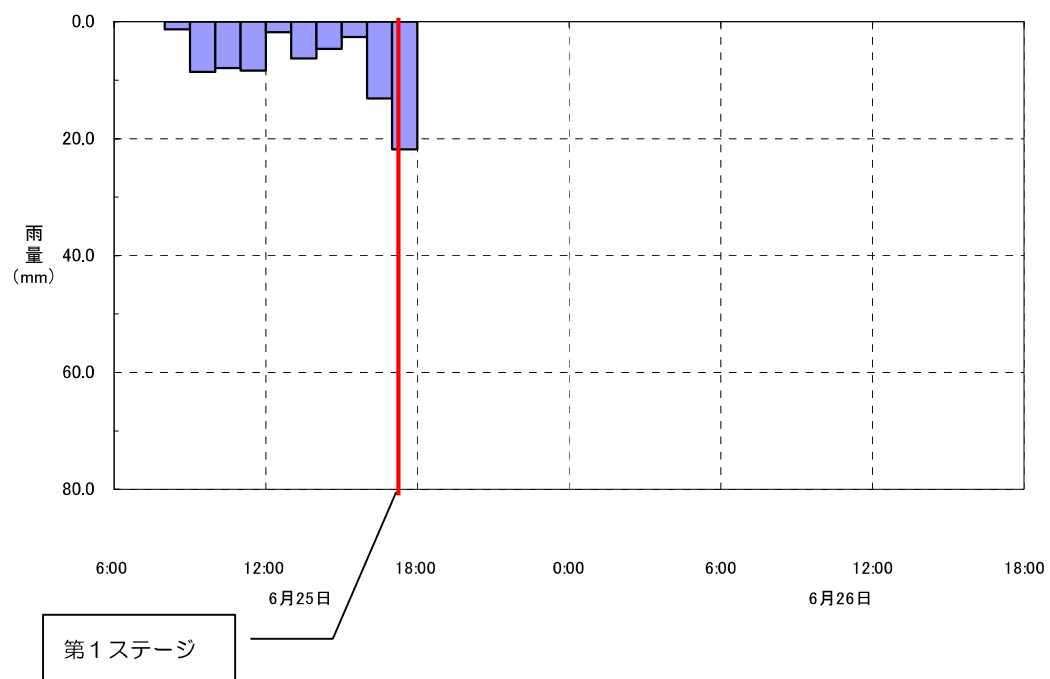


図 台風経路図

【気象情報】

大雨注意報	佐賀地方気象台
-------	---------



週間天気予報							
日付	6/25 (金)	6/26 (土)	6/27 (日)	6/28 (月)	6/29 (火)	6/30 (水)	7/1 (木)
佐賀県	雨 	雨 	雨 	雨 	晴 	晴 	曇 

2 河川水位

嘉瀬川の水位は、はん濫危険水位に到達した場面とする。
下記の通りとする。

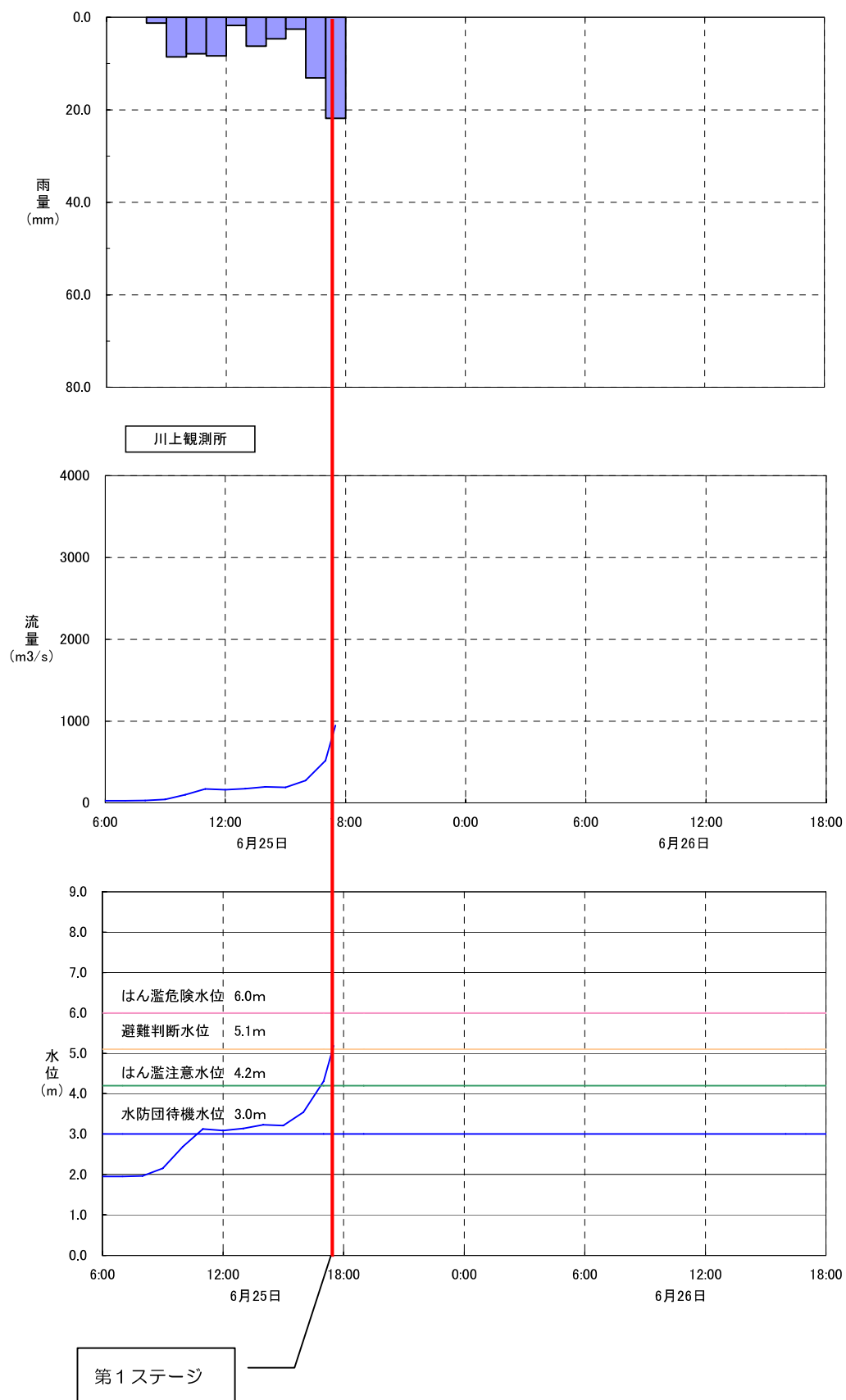


表 予警報の発令時刻

【洪水警報】

河川名	嘉瀬川
基準観測所	川上水位観測所
はん濫注意情報(発表)	17:00 はん濫注意水位超過 4.2m
はん濫警戒情報(発表)	17:15 避難判断水位到達 5.1m

【水防警報】

河川名	嘉瀬川
基準観測所	川上水位観測所
水防警報(待機)	11:00 水防団待機水位 3.0m
水防警報(準備)	16:00 はん濫注意水位超過 1 時間前
水防警報(出動)	17:00 はん濫注意水位超過

3 浸水の状況（範囲・水深）

佐賀大学付近をはじめ、佐賀市内の至るところで内水が生じている。今後も降雨の増大に伴い内水が顕著化する状況である。浸水の範囲は次頁に示す。浸水の深さは、佐賀駅周辺で膝下までの10～20cm弱である。

被害場所	市内の至るところで内水が発生。
被害状況	内水によって浸水する範囲は次頁に示す。内水が広範囲に生じ、深いところで膝下まで浸水している状況。浸水深は10cm～20cm程度



4 通行止め情報など、道路浸水状況

佐賀駅周辺を中心として内水が拡大し、道路の浸水範囲も拡大している。

今後も雨の増加により内水の範囲が拡大し、道路の通行規制が延長される見通し。

通行止め及び道路浸水の状況を以下に示す。

なお、通行止め範囲を次頁に示す。

■通行止め及び道路浸水の状況

通行止め	道路：①国道 263 号バイパスと佐賀外環線の交差部 ②国道 207 号と国道 208 号の交差部 ③佐賀川副線（大財付近） ④佐賀停車場線（唐人付近） ⑤国道 34 号と国道 263 号の交差部 鉄道：JR 長崎本線（佐賀～鍋島区間）は運転見合わせ中
道路浸水	佐賀駅周辺を中心として内水が拡大し、道路の浸水範囲も拡大している。 今後も雨の増加により内水の範囲が拡大し、道路の通行規制が延長される見通し。

■通行止めの範囲



※「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会（第9回）平成 21 年 12 月 24 日」の資料 P69「緊急輸送道路の被害想定①佐賀市街地拡散型氾濫：15.0km）＜破堤後から概ね浸水解消までの緊急輸送道路の通行止め状況＞」を基に設定。

①

通行止め範囲

5 避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など

避難状況・人的被害状況、逃げ遅れや孤立者の状況は以下の通りとする。

項 目	被 害 状 況
避難状況	自主避難 50 名（20 世帯）
人的被害状況	現在のところ人的被害状況はない
逃げ遅れや孤立者の状況	現在のところ逃げ遅れや孤立者や取り残された状況はない

6 避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ

至るところで浸水深 10cm 程度の内水が発生しているが、避難所の周辺が浸水して孤立化しているところはない。

ただし、道路は一部浸水が生じており、場所によっては、車両等の移動が困難な場所も発生している。これにより、避難所までの移動が徐々に困難になりつつある。

現在のところ、要援護者施設浸水しているところはない。

「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」に基づく 机上演習の実施

初期情報と外水氾濫の予測に関する補足資料 ステージ2

【嘉瀬川左岸】

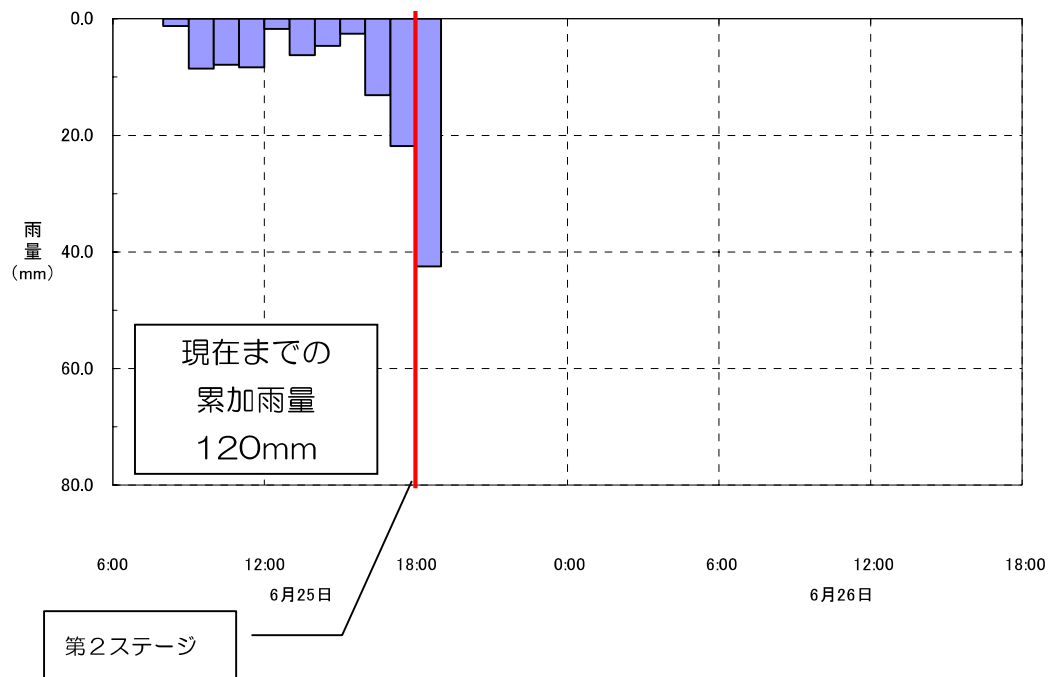
1	気象状況	1
2	河川水位	2
3	外水氾濫の状況と今後の予測（範囲・水深・流向・流速など）	4
4	決壊地点情報（決壊幅など）	5
5	通行止め情報など、道路浸水状況	6
6	避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など	8
7	避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ	8

1 気象状況

大雨警報が発令され、今後さらに雨が降る見通し。

【気象情報】

大雨警報	佐賀地方气象台
------	---------



週間天気予報							
日付	6/25 (金)	6/26 (土)	6/27 (日)	6/28 (月)	6/29 (火)	6/30 (水)	7/1 (木)
佐賀県	雨 	雨 	雨 	雨 	晴 	晴 	曇 

2 河川水位

嘉瀬川の水位は、はん濫危険水位に到達し、破堤した場面とする。
下記の通りとする。

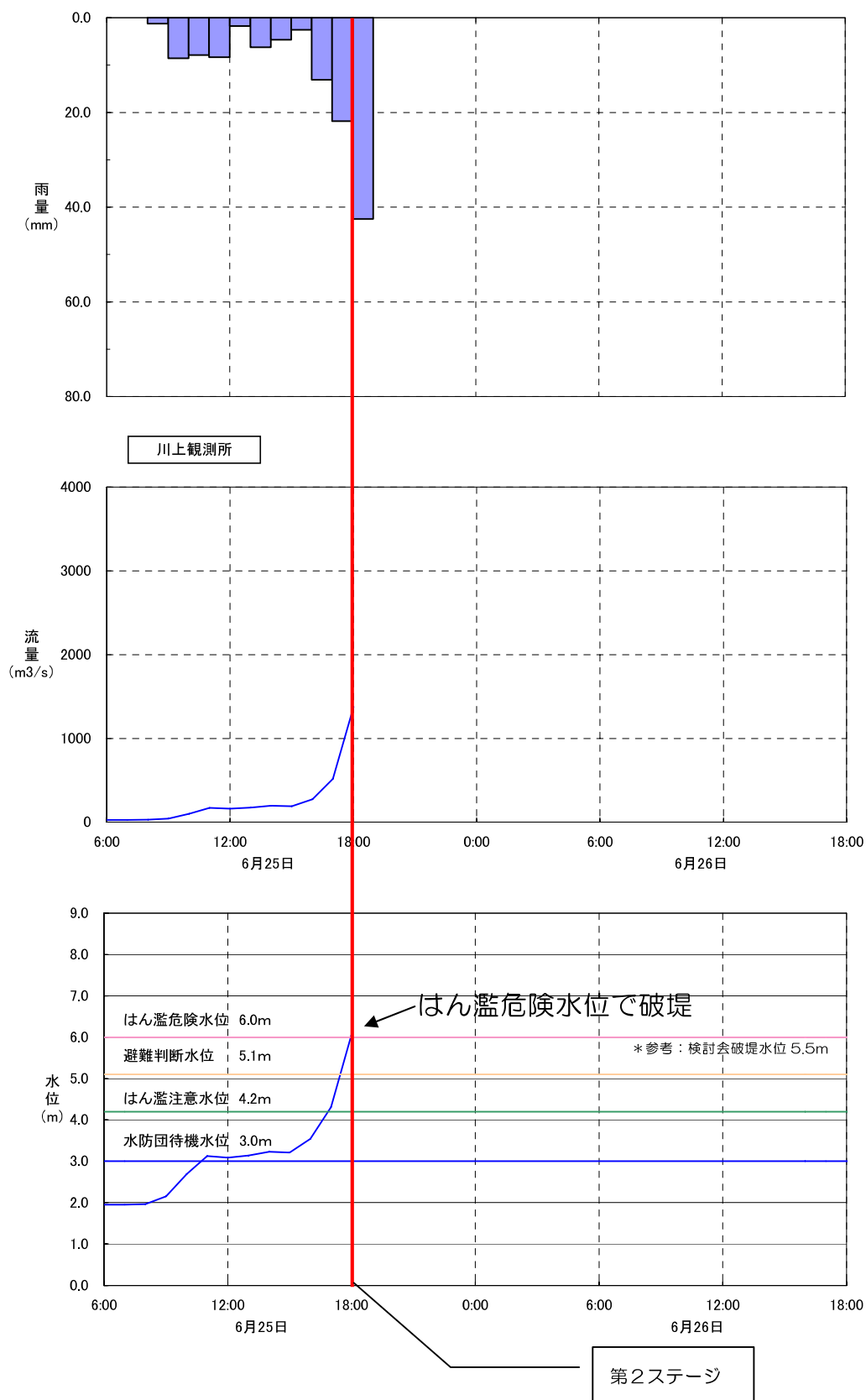


表 予警報の発令時刻

【洪水警報】

河川名	嘉瀬川			
基準観測所	川上水位観測所			
はん濫注意情報(発表)	17:00	はん濫注意水位超過	4.2m	
はん濫危険情報(発表)	17:20	避難判断水位到達	5.1m	
はん濫発生情報(発表)	18:00	はん濫危険水位到達	6.0m	破堤

【水防警報】

河川名	嘉瀬川			
基準観測所	川上水位観測所			
水防警報(待機)	11:00	水防団待機水位	3.0m	
水防警報(準備)	16:00	はん濫注意水位超過	1 時間前	
水防警報(出勤)	17:00	はん濫注意水位超過		

3 外水氾濫の状況と今後の予測（範囲・水深・流向・流速など）

破堤直後、破堤口付近の家屋は濁流により流出し、逃げ遅れている住民も多くいる模様。氾濫流は1時間後ジャスコ付近まで到達する。最大浸水深は破堤箇所近傍で2m以上である。また、破堤箇所付近の流速は3m/s以上である。

今後の氾濫の状況としては、6時間後には佐賀駅に到達することが予想される。

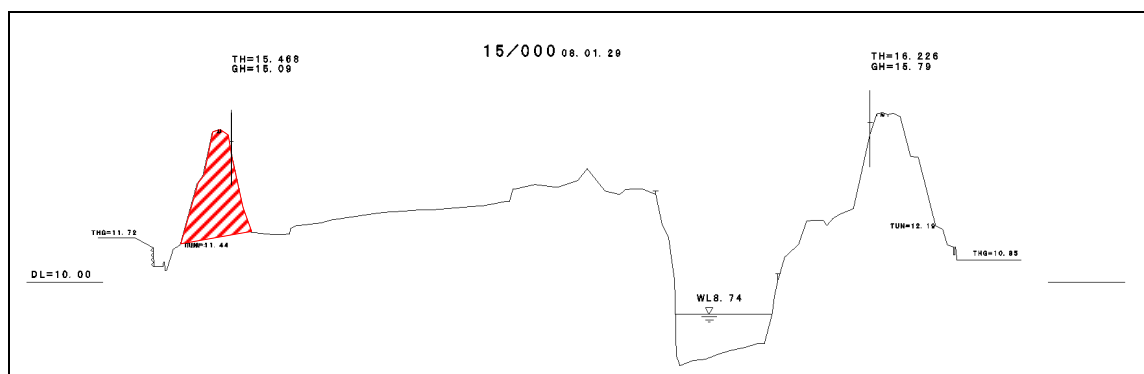
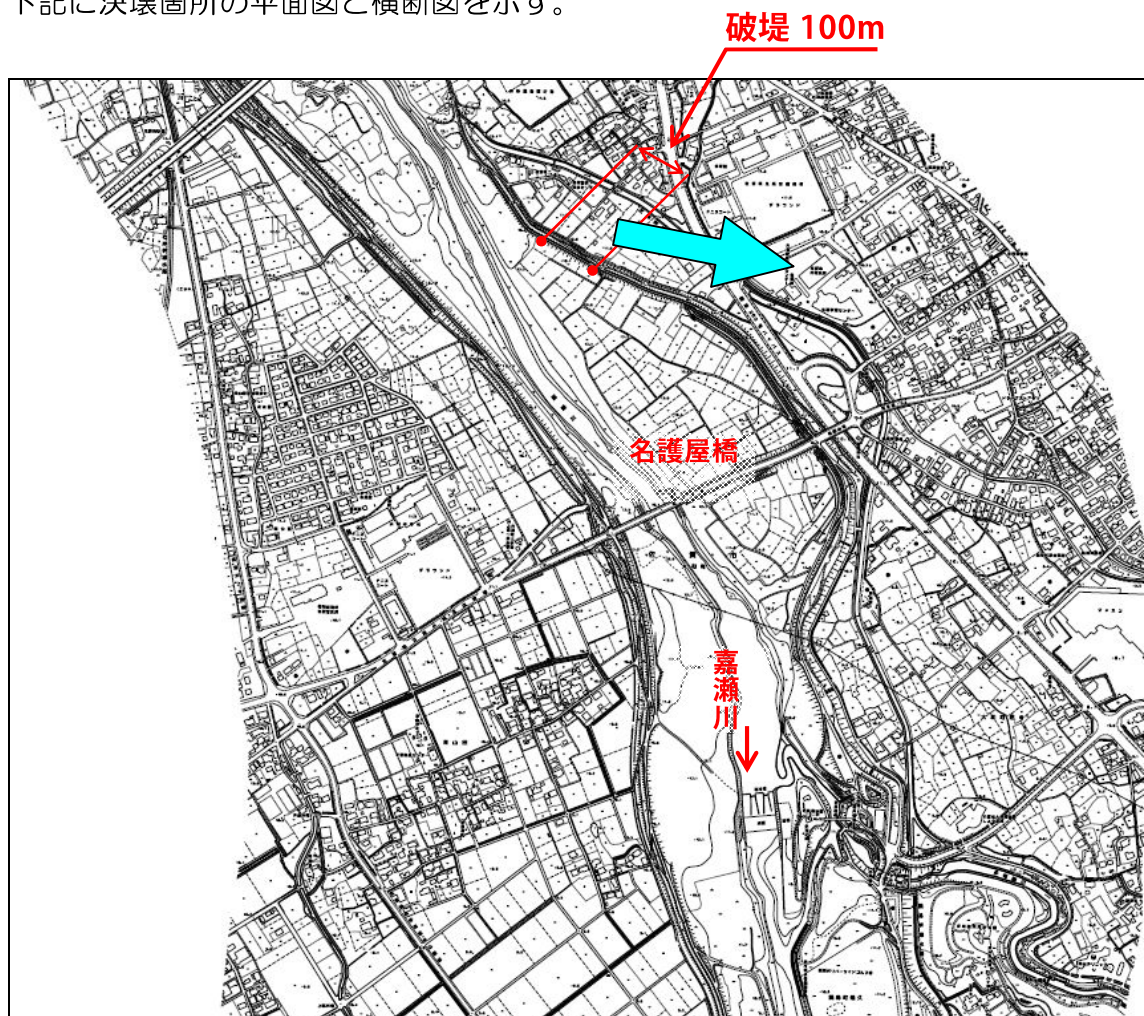
外水氾濫の状況	破堤口付近の家屋が濁流により流失。（破堤口付近の流速は3m/s以上）
今後の予測	6時間後に佐賀駅まで到達する見込み。



※「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第8回)平成21年9月7日」の資料「参考資料(2)検討条件による浸水状況の違い」P7「(2)内水を考慮しない場合の浸水状況(①佐賀市街地拡散型氾濫：左岸15.0km)〈はん濫開始～最大浸水までの浸水状況〉」を基に設定。

4 決壊地点情報（決壊幅など）

嘉瀬川の15k左岸側がはん濫危険水位を超過し決壊した。破堤口は洗掘されて約100m程度となり、引き続き拡大している。復旧の見通しはついていない。下記に決壊箇所の平面図と横断図を示す。



嘉瀬川左岸 15k 破堤箇所横断図

5 通行止め情報など、道路浸水状況

佐賀駅周辺が内水による浸水(10cm～30cm)が拡大している。

破堤箇所付近は氾濫流による浸水が拡大している。

破堤箇所付近の道路は1 m 以上の浸水深となっている。

通行止め及び道路浸水の状況を以下に示す。

なお、通行止め範囲を次頁に示す。

■通行止め及び道路浸水の状況

通行止め	道路：①佐賀外環線（神埼町付近） ②佐賀外環線（佐賀市久保泉町付近） ③国道 263 号バイパスと佐賀外環線の交差部 ④国道 207 号と国道 208 号の交差部 ⑤国道 444 号（東与賀町付近） ⑥国道 444 号（川副町付近） ⑦国道 444 号と佐賀川副線の交差部 ⑧国道 444 号と佐賀空港線の交差部 ⑨佐賀川副線（大財付近） ⑩佐賀停車場線（唐人付近） ⑪国道 34 号と国道 263 号の交差部 鉄道：JR 長崎本線（神埼～久保田区間）は運行停止
道路浸水	佐賀駅周辺が内水による浸水(10cm～30cm)が拡大している。 破堤箇所付近は氾濫流による浸水が拡大している。 破堤箇所付近の道路は1 m 以上の浸水深となっている。

■通行止めの範囲



※「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第9回)平成 21 年 12 月 24 日」の資料 P69「緊急輸送道路の被害想定 (①佐賀市街地拡散型氾濫：15.0km) <破堤後から概ね浸水解消までの緊急輸送道路の通行止め状況>」を基に設定。

①

通行止め範囲

6 避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など

避難状況・人的被害状況、逃げ遅れや孤立者の状況は以下の通りとする。

項 目	被 害 状 況
避難状況	4,620人避難
人的被害状況	嘉瀬川破堤口付近で1名、氾濫流によって流された。
逃げ遅れや孤立者の状況	嘉瀬川破堤口付近では逃げ遅れた人が孤立している。 孤立者の数は100人。

7 避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ

至るところで、10cm～30cm の内水が発生しており、車輛による移動が困難となっている。また、避難所の周辺が浸水し、避難所に避難した人が孤立化するケースも見られる。道路冠水によって、車両を放置するケースがみられ、渋滞発生を助長し、避難をより一層困難にしている。災害時要援護者等の救助などを行う機関も車両による移動が困難となり、ボートによる救助が必要となっている。

今後も、15kで破堤した氾濫流が南下し、佐賀市街地部を直撃する見込み。

「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」に基づく 机上演習の実施

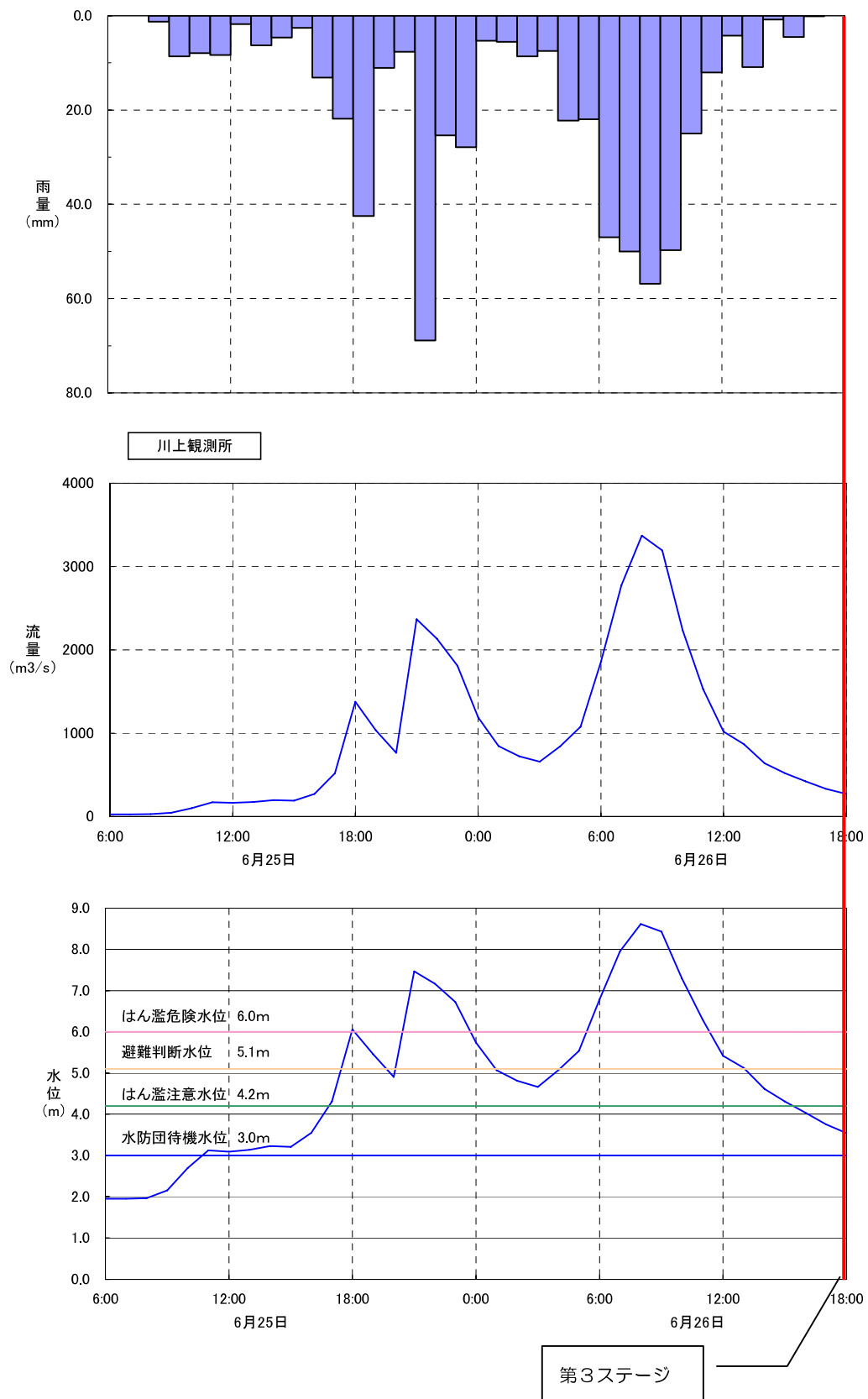
初期情報と外水氾濫の予測に関する補足資料 ステージ3

【嘉瀬川左岸】

1	河川水位	1
2	外水氾濫の状況と今後の予測（範囲・水深・流向・流速など）	2
3	決壊地点情報（決壊幅など）	3
4	通行止め情報など、道路浸水状況	4
5	避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など	5
5	避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など	6
6	避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ	6

1 河川水位

嘉瀬川の水位は、徐々に低下し、水防団待機水位付近まで下がっている。
下記の通りとする。



2 外水氾濫の状況と今後の予測（範囲・水深・流向・流速など）

破堤後24時間の時点で、すでに氾濫流は佐賀駅を超えてさらに南下している。最大浸水深は1m～2mの範囲が広範囲に及び。

今後の氾濫の状況としては、48時間後には嘉瀬川の河口付近まで到達することが予想される。

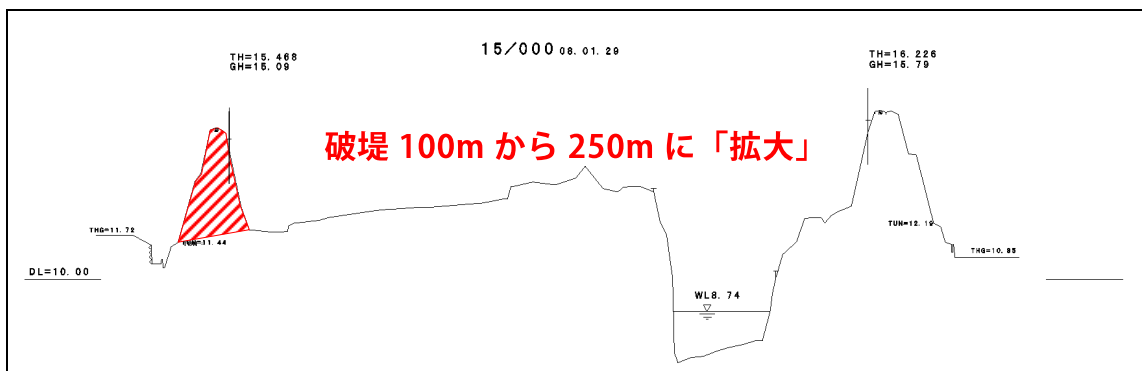
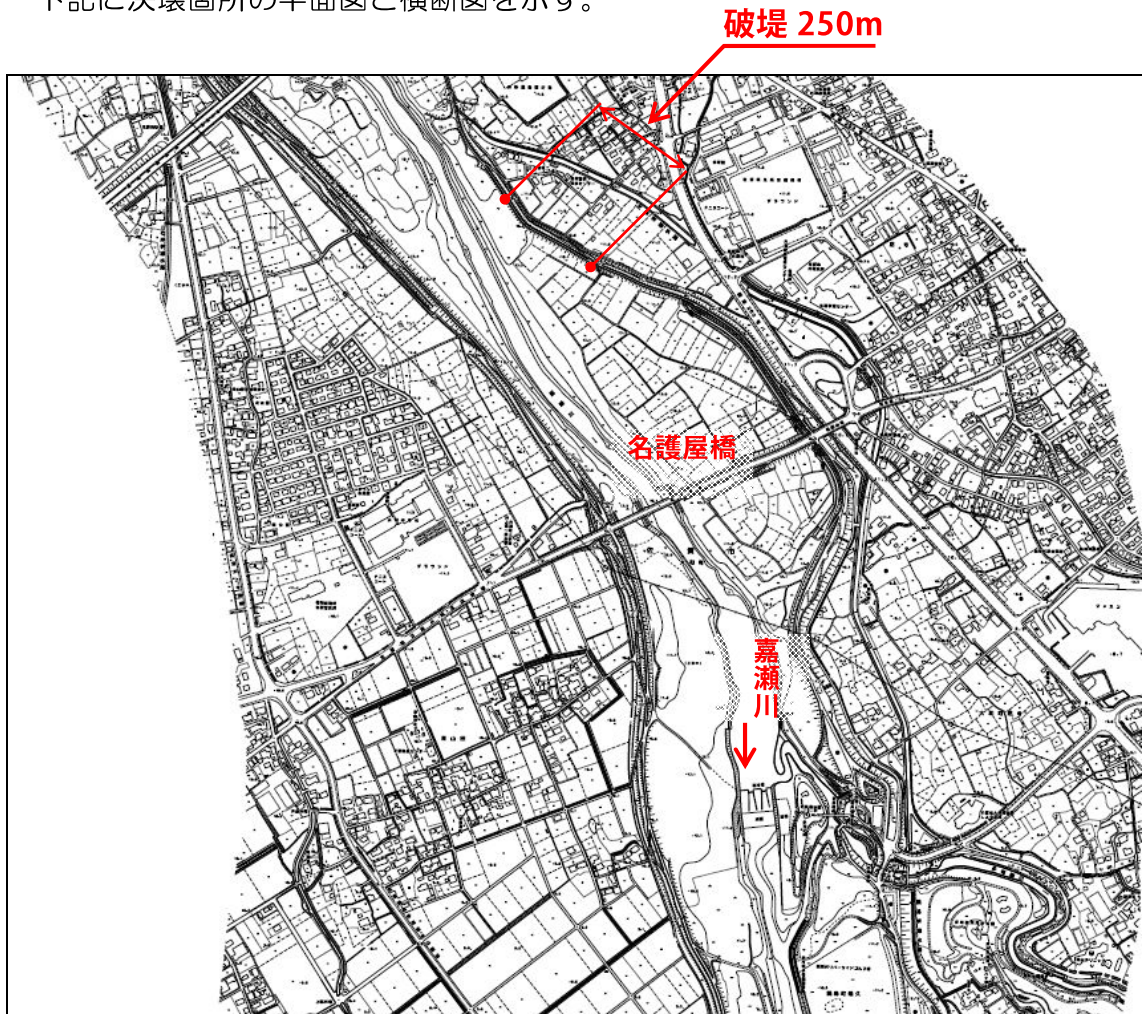


※「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第8回)平成21年9月7日」の資料「参考資料(2)検討条件による浸水状況の違い」P7「(2)内水を考慮しない場合の浸水状況(①佐賀市街地拡散型氾濫：左岸15.0km)〈はん濫開始～最大浸水までの浸水状況〉」を基に設定。

3 決壊地点情報（決壊幅など）

嘉瀬川の15k左岸側の破堤口はさらに拡大し、決壊直後の100mから約250m程度となった。現在、雨は小康状態となり、破堤口付近の水位も下がる見込み。今後は氾濫水の速やかな排除と復旧の対策について検討される見通し。

下記に決壊箇所の平面図と横断図を示す。



嘉瀬川左岸 15k 破堤箇所横断図

4 通行止め情報など、道路浸水状況

佐賀駅周辺において内水による浸水(10cm～30cm)が拡大している。

破堤箇所付近は氾濫流により佐賀駅付近まで浸水深が 1m～2m となりなお、範囲は拡大している。

通行止め及び道路浸水の状況を以下に示す。

なお、通行止め範囲を次頁に示す。

■通行止め及び道路浸水の状況

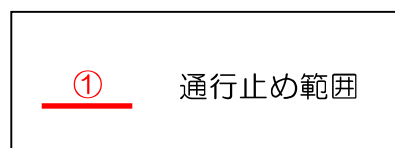
通行止め	道路：①国道 263 号バイパス（外環状線交差部） ②国道 263 号（国道 34 号交差部） ③国道 34 号（国道 263 号交差部～佐賀背振線交差部） ④外環状線（神埼町付近） ⑤佐賀背振線（国道 264 号交差部～国道 34 号交差部） ⑥国道 207 号（嘉瀬川～国道 264 号交差部） ⑦国道 264 号（東神野交差点～佐賀背振線交差部） ⑧国道 444 号（1.東与賀付近、2.川副町付近、3.諸富町付近） ⑨佐賀川副線（1.大財町付近、2.国道 444 号交差部） ⑩佐賀空港線（1.川副町付近、2.東与賀町付近） ⑪佐賀停車場線（駅南口付近） ⑫駅北口大通り（駅北口付近） ⑬国道 208 号（西与賀佐賀線交差部～川副線交差部） ⑭西与賀佐賀線（西与賀町付近） 鉄道：JR 長崎本線（神埼～久保田区間）は運行停止
道路浸水	佐賀駅周辺において内水による浸水(10cm～30cm)が拡大している。 破堤箇所付近は氾濫流により佐賀駅付近まで浸水深が 1m～2m となり なお、範囲は拡大している。

■通行止めの範囲



4

※「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第9回)平成 21 年 12 月 24 日」の資料 P69「緊急輸送道路の被害想定 (①佐賀市街地拡散型氾濫：15.0km) <破堤後から概ね浸水解消までの緊急輸送道路の通行止め状況>」を基に設定。



5 避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など

避難状況・人的被害状況、逃げ遅れや孤立者の状況は以下の通りとする。

項 目	被 害 状 況
避難状況	7700人避難
人的被害状況	破堤口付近の家屋が流失し、死者は10名となった。
逃げ遅れや孤立者の状況	嘉瀬川破堤口付近では逃げ遅れた人が孤立している。 孤立者の数は15,000人。

＊ 避難状況の数字は浸水想定人口（154,000人）の5%とした。

＊ 死者数、孤立者数は避難率40%を想定。第8回佐賀平野危機管理検討会を参考

6 避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ

外水の氾濫の影響で、浸水が1m～2mのところにある避難所もあり、避難が困難な状況となっている。今後も氾濫流は南下し、避難所が孤立化する状況が拡大すると予想される。さらに、家屋浸水に伴う停電によるTVからの情報も入手困難となり、救助要請の伝達が困難となっている。これにより災害時要援護者等の所在の確認が困難となっており、救助活動をさらに困難にしている。

浸水が長期化することを踏まえ、広域的な応援や要援護者に対する支援。救助について関係機関で調整が行われている。

「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」に基づく 机上演習の実施

初期情報と外水氾濫の予測に関する補足資料 ステージ1

【六角川右岸】

1	気象状況	1
2	河川水位	2
3	内水の状況と今後の予測（範囲・水深）	4
4	通行止め情報など、道路浸水状況	5
5	避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など	7
6	避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ	7

1 気象状況

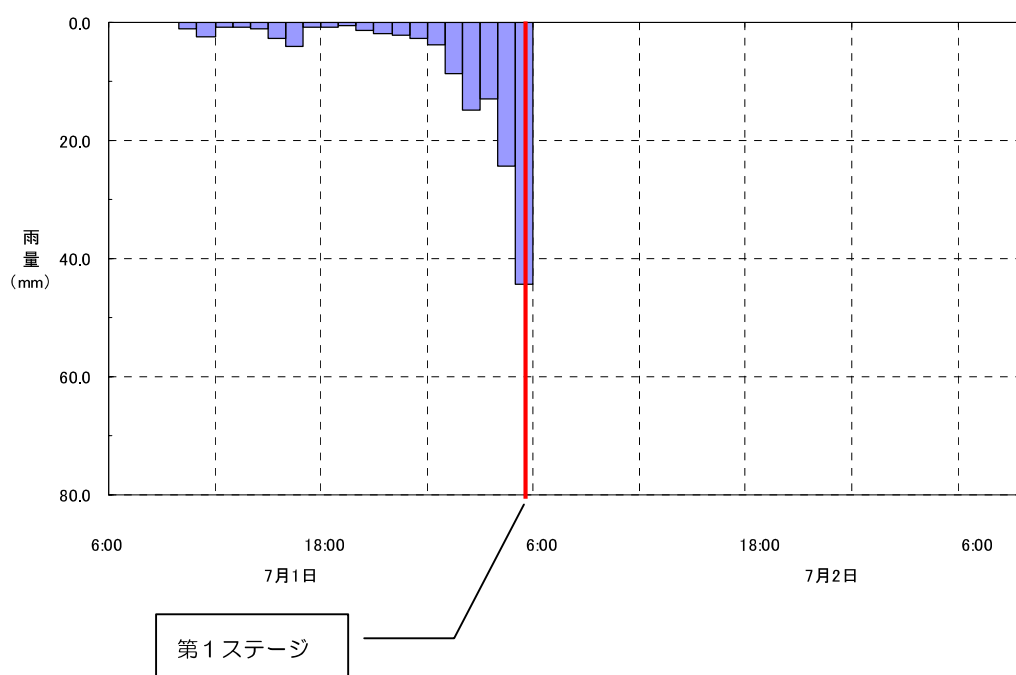
7月1日は、九州南部に停滞していた梅雨前線が、ゆっくり北上を始めたため天気は不安定な状態が続き、雨が降り続いた。

梅雨前線が九州中部付近まで北上した夜から雨は本降りとなり、雨脚が強まり始めた。

- ・潮見橋上流流域：時間最大雨量 44mm、降り始めからの累加雨量 131mm

【気象情報】

大雨洪水警報	佐賀地方气象台
--------	---------



週間天気予報							
日付	7/1 (金)	7/2 (土)	7/3 (日)	7/4 (月)	7/5 (火)	7/6 (水)	7/7 (木)
佐賀県	雨 	雨 	雨 	雨 	晴 	晴 	曇 

2 河川水位

六角川の水位は、避難判断水位に到達した場面とする。
下記の通りとする。

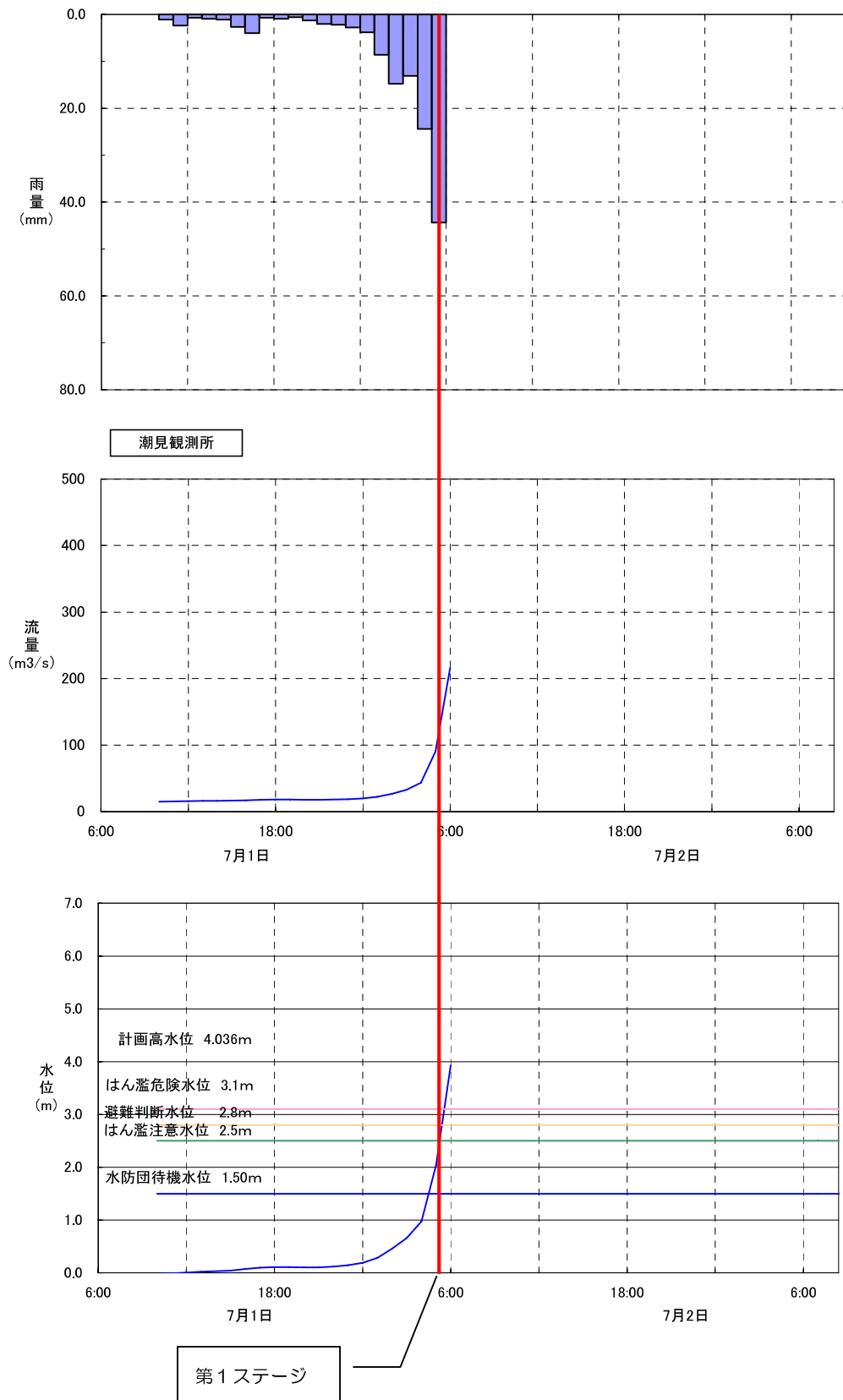


表 予警報の発令時刻

【洪水警報】

河川名	六角川		
基準観測所	潮見水位観測所		
はん濫注意情報(発表)	5:20	はん濫注意水位超過	2.5m
はん濫危険情報(発表)	5:30	避難判断水位超過	2.8m
		はん濫危険水位到達	3.1m

【水防警報】

河川名	六角川		
基準観測所	潮見水位観測所		
水防警報(待機)	4:40	水防団待機水位	1.5m
水防警報(準備)	5:00	はん濫注意水位超過前	
水防警報(出動)	5:20	はん濫注意水位超過	

3 内水の状況と今後の予測（範囲・水深）

白石町の至るところで内水が生じている。今後も降雨の増大に伴い内水が顕著化する状況である。浸水の深さは、10～20cm 弱である。

浸水の範囲は次頁に示す。



4 通行止め情報など、道路浸水状況

白石町周辺を中心として通行止めが行われている。また、JR 長崎本線も一部運行を見合わせている。

今後も雨の増加により内水の範囲が拡大し、道路の通行規制が延長される見通し。

通行止め及び道路浸水の状況を以下に示す。

なお、通行止め範囲を次頁に示す。

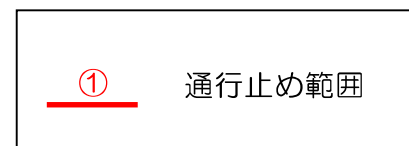
■通行止め及び道路浸水の状況

通行止め	道路：①国道 444 号（嘉瀬川～久富交差点付近） ②国道 444 号（1.白石町築切と 2.牛屋付近） ③国道 207 号：長崎街道＜多良通り＞（長崎本線交差部） ④国道 34 号（北方町志久付近） 鉄道：JR 長崎本線：鍋島駅～武雄温泉駅 JR 佐世保線：肥前山口～肥前鹿島駅 JR 唐津線：久保田駅～中多久駅
道路浸水	白石町周辺を中心として通行止めが行われている。また、JR 長崎本線も一部運行を見合わせている。 今後も雨の増加により内水の範囲が拡大し、道路の通行規制が延長される見通し。

■通行止めの範囲



- ※ 「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第9回)平成 21 年 12 月 24 日」の資料 P151「 4)浸水状況(②六角川下流右岸氾濫 地点：六角川右岸 25.0km)＜破堤前から概ね浸水解消までの浸水状況＞」を基に設定。
- ※ 次頁に示す浸水状況図から浸水深 0.3m以上の浸水箇所を通行止めの範囲として設定した。



5 避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など

避難状況・人的被害状況、逃げ遅れや孤立者の状況は以下の通りとする。

項 目	被 害 状 況
避難状況	自主避難 50 名（20 世帯）
人的被害状況	現在のところ人的被害状況はない
逃げ遅れや孤立者の状況	現在のところ逃げ遅れや孤立者や取り残された状況はない

6 避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ

至るところで浸水深 10cm 程度の内水が発生しているが、避難所の周辺が浸水して孤立化しているところはない。

ただし、道路は一部浸水が生じており、場所によっては、車両等の移動が困難な場所も発生している。これにより、避難所までの移動が徐々に困難になりつつある。

「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」に基づく 机上演習の実施

初期情報と外水氾濫の予測に関する補足資料 ステージ2

【六角川右岸】

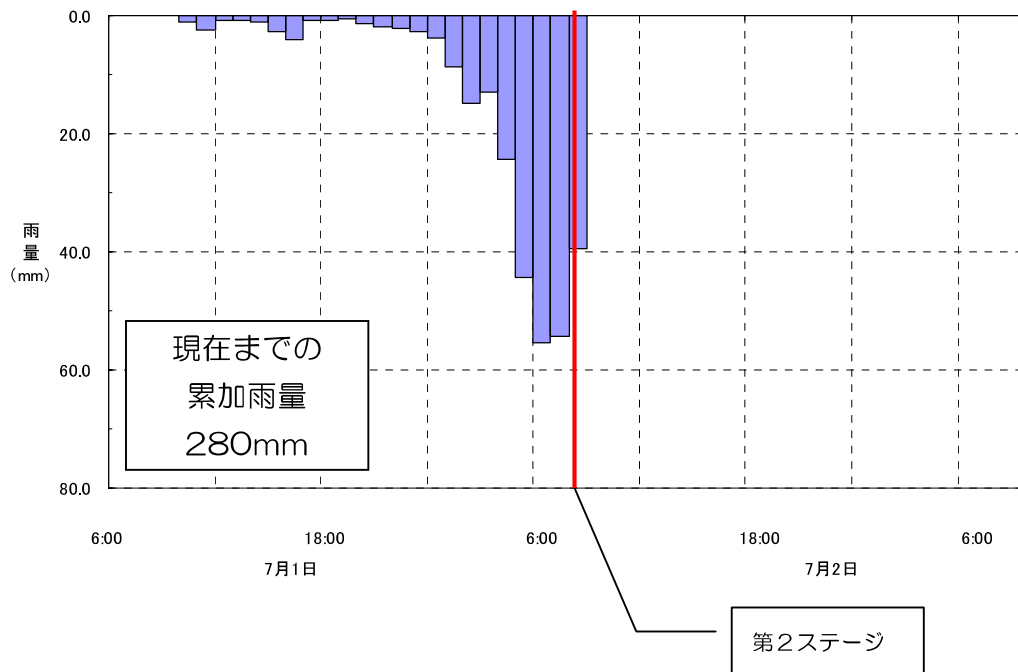
1	気象状況	1
2	河川水位	2
3	外水氾濫の状況と今後の予測（範囲・水深・流向・流速など）	4
4	決壊地点情報（決壊幅など）	5
5	通行止め情報など、道路浸水状況	6
6	避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など	8
7	避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ	8

1 気象状況

大雨警報が発令されが、今後は雨は減少傾向になる見通し。

【気象情報】

大雨警報	佐賀地方气象台
------	---------



週間天気予報							
日付	7/1 (金)	7/2 (土)	7/3 (日)	7/4 (月)	7/5 (火)	7/6 (水)	7/7 (木)
佐賀県	雨 	雨 	雨 	雨 	晴 	晴 	曇 

2 河川水位

六角川の水位は、計画高水位を超過し、破堤した場面とする。
下記の通りとする。

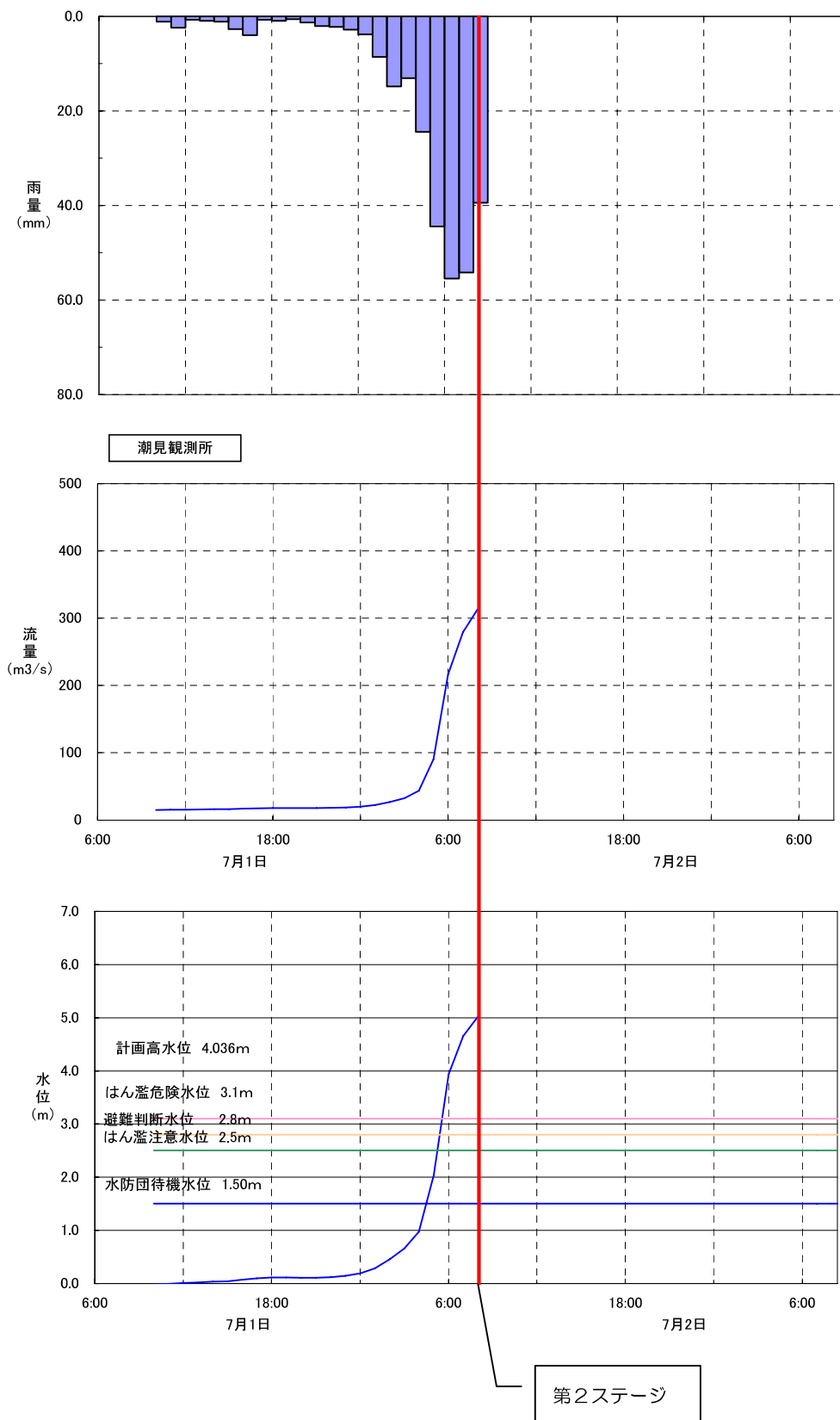


表 予警報の発令時刻

【洪水警報】

河川名	六角川		
基準観測所	潮見水位観測所		
はん濫注意情報(発表)	5:20	はん濫注意水位超過	2.5m
はん濫危険情報(発表)	5:30	避難判断水位超過	2.8m
		はん濫危険水位到達	3.1m
はん濫発生情報(発表)	7:00	計画高水位超過	4.036m
	8:00	破堤	

【水防警報】

河川名	六角川		
基準観測所	潮見水位観測所		
水防警報(待機)	4:40	水防団待機水位	1.5m
水防警報(準備)	5:00	はん濫注意水位超過前	
水防警報(出動)	5:20	はん濫注意水位超過	

3 外水氾濫の状況と今後の予測（範囲・水深・流向・流速など）

破堤直後、破堤口付近の家屋は濁流により流出し、逃げ遅れている住民も多くいる模様。氾濫流は白石町方面に広がり、最大浸水深は破堤箇所近傍で2m以上である。

今後の氾濫の状況としては、6時間後には JR 長崎本線に到達することが予想される。

外水氾濫の状況	破堤口付近の家屋が濁流により流失。
今後の予測	6時間後には肥前白石駅付近まで到達。 12時間後には JR 長崎本線を越えて国道444号付近まで到達する見込み。



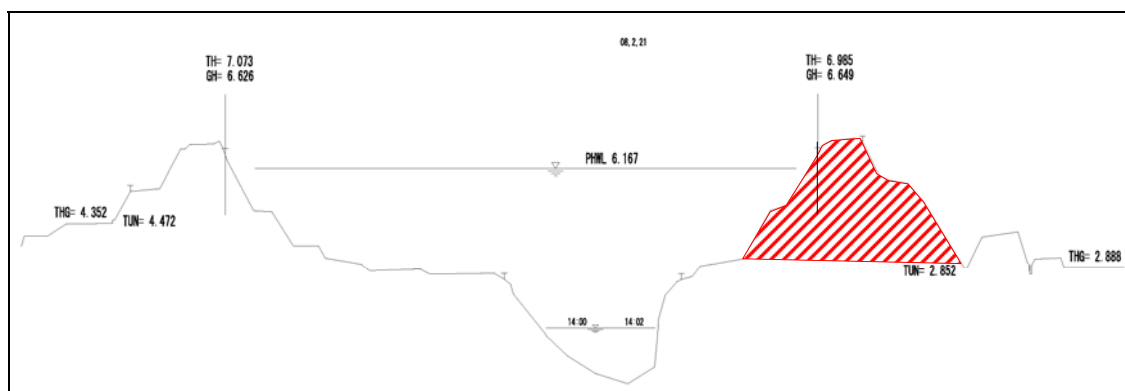
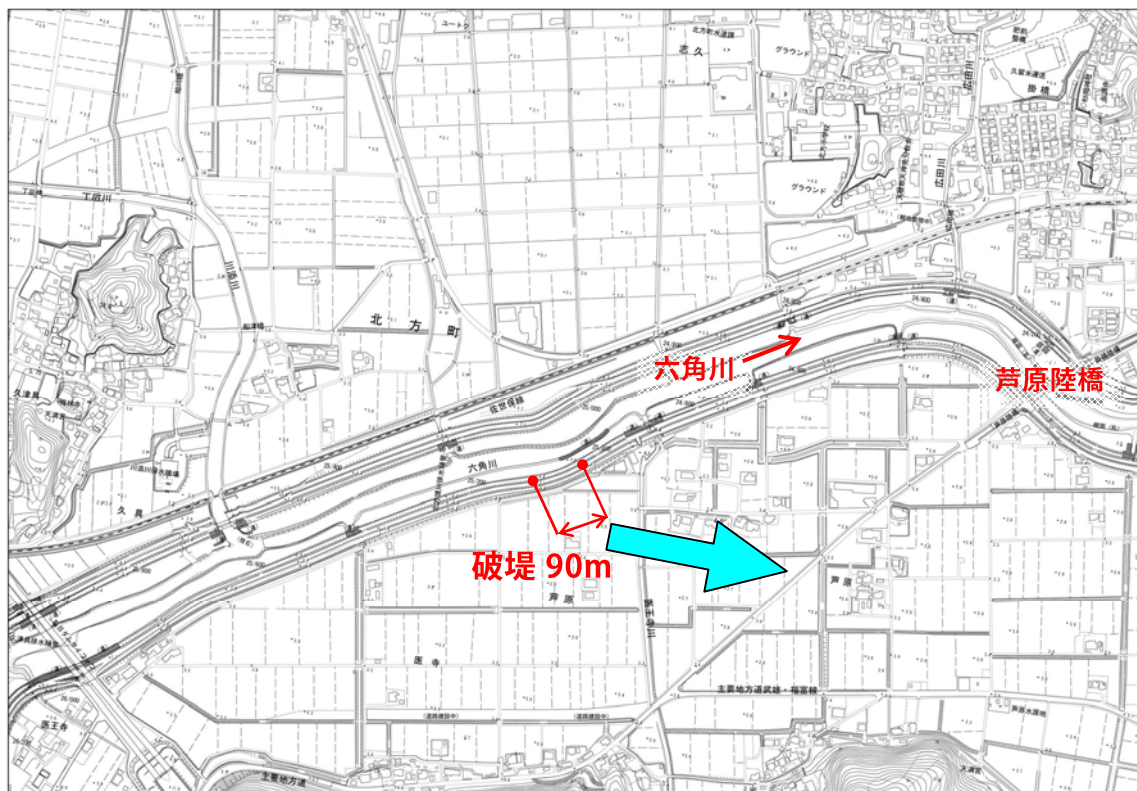
※ 「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第9回)平成21年12月24日」の資料P152「5)内水を考慮しない場合の浸水状況(②六角川下流右岸氾濫 地点:六角川右岸25.0km)」を基に設定。

×	破堤箇所
—	通行止め範囲

4 決壊地点情報（決壊幅など）

六角川の25k右岸側がはん濫危険水位を超過し決壊した。破堤口は洗掘されて約90m程度となり、引き続き拡大している。復旧の見通しはついていない。

下記に決壊箇所の平面図と横断図を示す。



六角川右岸 25k 破堤箇所横断図

5 通行止め情報など、道路浸水状況

六角川25k右岸側の破堤により破堤箇所付近の道路は1m以上の浸水深となっている。
通行止め及び道路浸水の状況を以下に示す。

なお、通行止め範囲を次頁に示す。

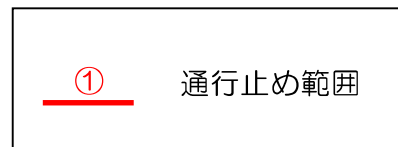
■通行止め及び道路浸水の状況

通行止め	道路：①国道444号（嘉瀬川～久富交差点付近） ②国道444号（白石町住ノ江交差点付近） ③国道444号（1.白石町築切と2.牛屋付近） ④国道203号と国道207号の交差点部（徳万交差点付近） ⑤国道207号：長崎街道＜多良通り＞（東分交差点～長崎本線交差点部） ⑥国道34号と国道207号の交差点部（牛津町上砥川付近） ⑦国道34号（北方町志久付近～大町駅付近） ⑧国道34号と国道498号の交差点 ⑨牛津芦刈線（芦刈町永田付近） ⑩武雄福富線（白石小学校付近） 鉄道：JR長崎本線：鍋島駅～武雄温泉駅 JR佐世保線：肥前山口～肥前鹿島駅 JR唐津線：久保田駅～中多久駅
道路浸水	六角川25k右岸側の破堤により破堤箇所付近の道路は1m以上の浸水深となっている。

■通行止めの範囲



※「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第9回)平成21年12月24日」の資料P151「4)浸水状況(②六角川下流右岸氾濫 地点:六角川右岸 25.0km)＜破堤前から概ね浸水解消までの浸水状況＞」を基に設定。
 ※ 次頁の浸水状況図で、浸水深0.3m以上の箇所を通行止めの範囲として設定した。



6 避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など

避難状況・人的被害状況、逃げ遅れや孤立者の状況は以下の通りとする。

項 目	被 害 状 況
避難状況	1,170 人避難
人的被害状況	六角川破堤口付近で1名、氾濫流によって流された。
逃げ遅れや孤立者の状況	六角川破堤口付近では逃げ遅れた人が孤立している。 孤立者の数は50人。

＊ 避難状況の数字は白石町の人口（39,000人）の3%とした。

＊ 白石町の人口は、住民基本台帳（H20年度末）を参考とした。

7 避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ

至るところで、10cm～30cm の内水が発生しており、車輛による移動が困難となっている。また、避難所の周辺が浸水し、避難所に避難した人が孤立化するケースも見られる。道路冠水によって、車両を放置するケースがみられ、渋滞発生を助長し、避難をより一層困難にしている。災害時要援護者等の救助などを行う機関も車両による移動が困難となり、ボートによる救助が必要となっている。

今後も、25kで破堤した氾濫流が拡大し、白石町を直撃する見込み。

「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」に基づく 机上演習の実施

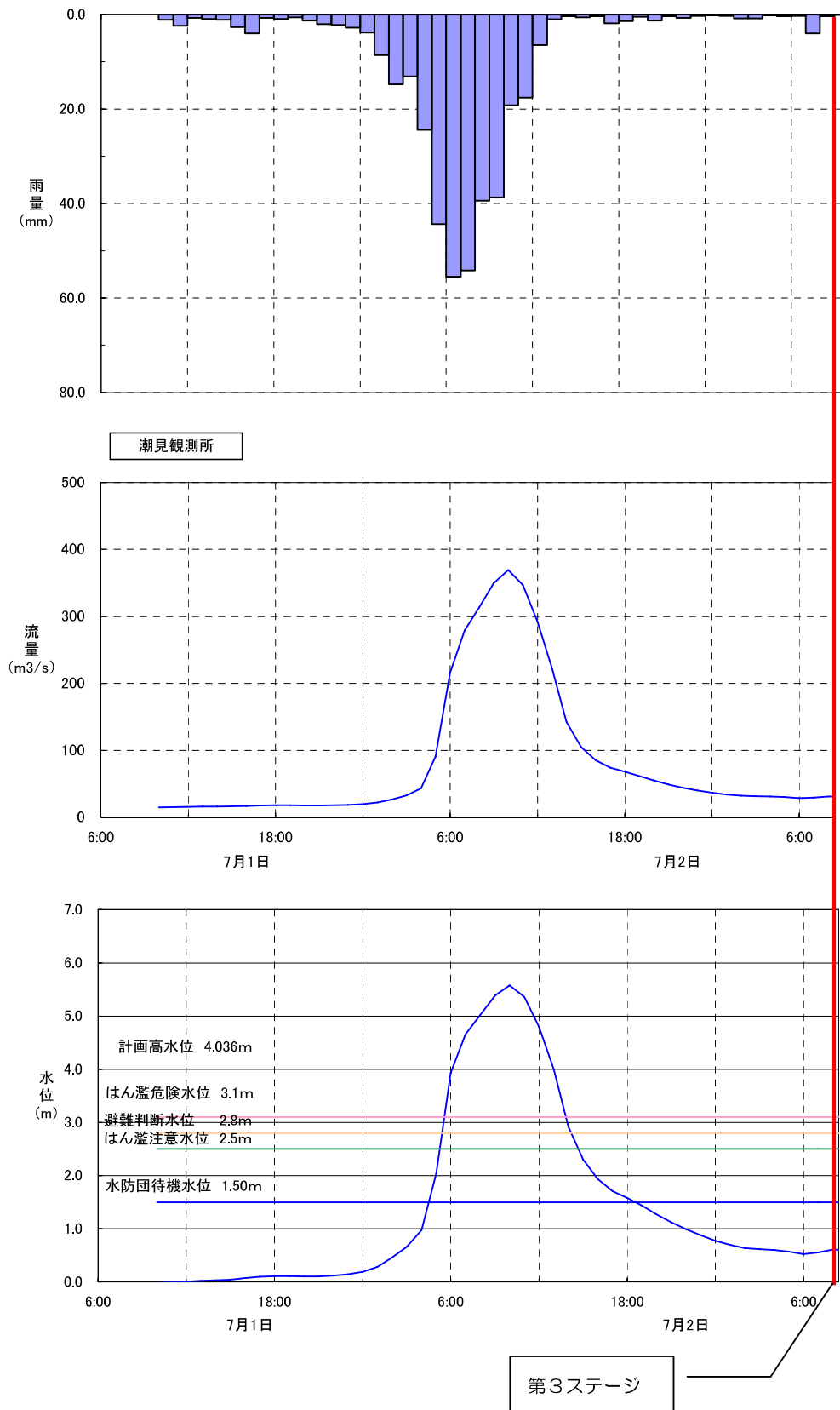
初期情報と外水氾濫の予測に関する補足資料 ステージ3

【六角川右岸】

1	河川水位	1
2	外水氾濫の状況と今後の予測（範囲・水深・流向・流速など）	2
3	決壊地点情報（決壊幅など）	3
4	通行止め情報など、道路浸水状況	4
5	避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など	6
6	避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ	6

1 河川水位

六角川の水位は、徐々に低下し、水防団待機水位を下回り、今後も低下の見直し。
下記の通りとする。



2 外水氾濫の状況と今後の予測（範囲・水深・流向・流速など）

破堤後24時間の時点で、すでに氾濫流は国道444号を超えてさらに南東方面（有明海方面）へ拡大している。

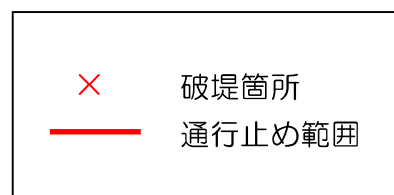
最大浸水深は1m～2mの範囲が広範囲に及び。

今後の氾濫の状況としては、48時間後には有明海付近まで到達することが予想される。

外水氾濫の状況	氾濫流は国道444号を超えてさらに南東方面（有明海方面）へ拡大している。 最大浸水深は1m～2mの範囲が部分的に存在する。
今後の予測	48時間後に有明海付近まで到達する見込み。



※「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第9回)平成21年12月24日」の資料P152「5)内水を考慮しない場合の浸水状況(②六角川下流右岸氾濫 地点:六角川右岸25.0km)」を基に設定。
※破堤48時間後は、検討会資料の氾濫の拡大状況から想定で設定した。

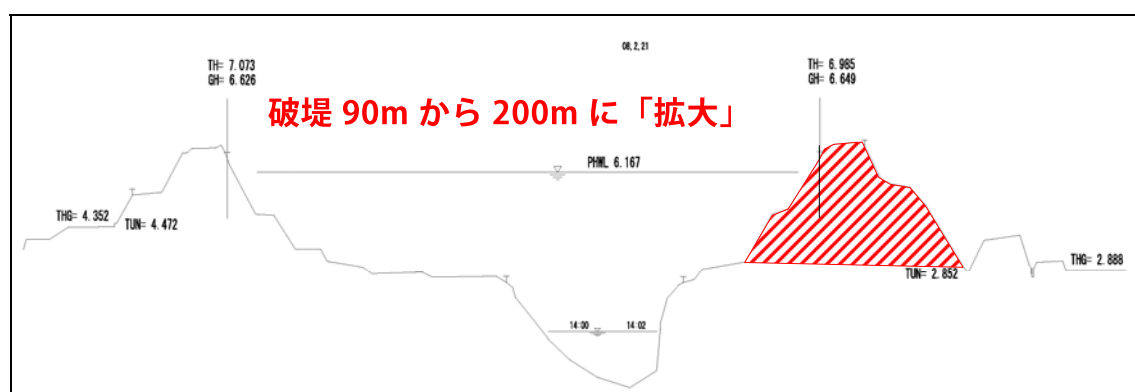
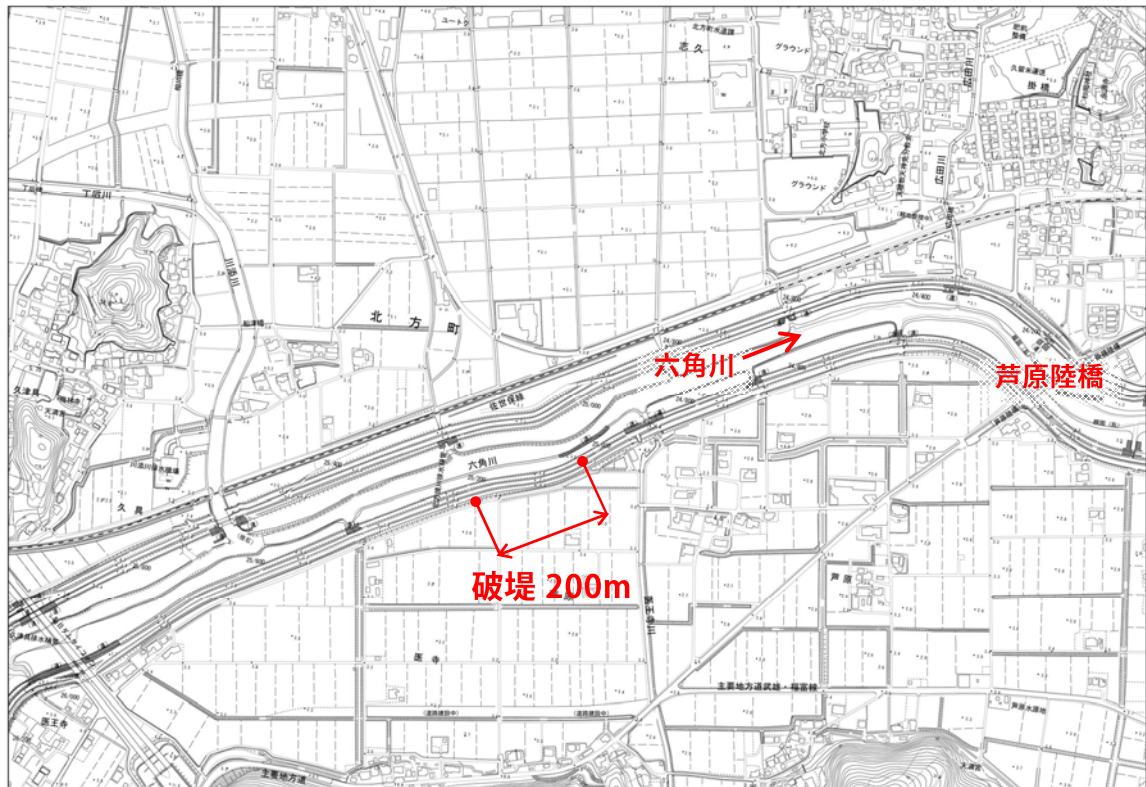


3 決壊地点情報（決壊幅など）

六角川の 25 k 右岸側の破堤口はさらに拡大し、決壊直後の 90m から約 200 m 程度となった。現在、雨は小康状態となり、破堤口付近の水位も下がる見込み。

今後は氾濫水の速やかな排除と復旧の対策について検討される見通し。

下記に決壊箇所の平面図と横断図を示す。



六角川右岸 25k 破堤箇所横断図

4 通行止め情報など、道路浸水状況

六角川 25k 右岸側破堤口から氾濫と内水の拡大によって道路の浸水する範囲が拡大している。

通行止め及び道路浸水の状況を以下に示す。

なお、通行止め範囲を次頁に示す。

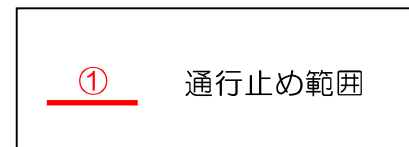
■通行止め及び道路浸水の状況

通行止め	道路：①国道 444 号（嘉瀬川～久富交差点付近） ②国道 444 号（白石町住ノ江交差点付近） ③国道 444 号（1.白石町築切と 2.牛屋付近） ④国道 203 号と国道 207 号の交差点部（徳万交差点付近） ⑤国道 207：長崎街道＜多良通り＞（東分交差点～長崎本線交差点部） ⑥国道 34 号と国道 207 号付近の交差点部（前満江交差点付近） ⑦国道 34 号（北方町志久付近） ⑧国道 34 号と国道 498 号の交差点 ⑨牛津芦刈線（芦刈町永田付近） ⑩武雄福富線（福富三差路～大戸） 鉄道：JR 長崎本線：鍋島駅～武雄温泉駅 JR 佐世保線：肥前山口～肥前鹿島駅 JR 唐津線：久保田駅～中多久駅
道路浸水	六角川 25k 右岸側破堤口から氾濫と内水の拡大によって道路の浸水する範囲が拡大している。

■通行止めの範囲



- ※ 「佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会(第9回)平成21年12月24日」の資料P151「4)浸水状況(②六角川下流右岸氾濫 地点:六角川右岸 25.0km)〈破堤前から概ね浸水解消までの浸水状況〉」を基に設定。
- ※ 次頁の浸水状況図で、浸水深0.3m以上の箇所を通行止めの範囲として設定した。



5 避難状況・人的被害状況・逃げ遅れや孤立者や取り残され状況など

避難状況・人的被害状況、逃げ遅れや孤立者の状況は以下の通りとする。

項 目	被 害 状 況
避難状況	1,950 人避難
人的被害状況	破堤口付近の家屋が流失し、死者は10名となった。
逃げ遅れや孤立者の状況	六角川破堤口付近では逃げ遅れた人が孤立している。 孤立者の数は 1,000 人。

＊ 避難状況の数字は白石町の人口（39,000 人）の 5%とした。

＊ 白石町の人口は、住民基本台帳（H20 年度末）を参考とした。

6 避難場所・避難ルート・要援護者に関する情報などのデータ

外水の氾濫の影響で、浸水が 1m～2m のところに位置する避難所もあり、避難が困難な状況となっている。今後も氾濫流は南下し、避難所が孤立化する状況が拡大すると予想される。さらに、家屋浸水に伴う停電による TV からの情報も入手困難となり、救助要請の伝達が困難となっている。これにより災害時要援護者等の所在の確認が困難となっており、救助活動をさらに困難にしている。

浸水が長期化することを踏まえ、広域的な応援や要援護者に対する支援、救助について関係機関で調整が行われている。